

令和3年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	国語総合	5	1年全コース	河村・本岡
教科書	『高等学校 改訂版 国語総合』 (第一学習社)	副教材	『九訂版 読解をたいせつにする体系古典文法』数研出版 『読解をたいせつにする体系古典文法 準拠ノート』数研出版 『常用漢字ダブルクリア』尚文出版 『クリアカラー 国語便覧』数研出版	

1. 学習の目標

近現代の優れた文章を読んで、読解力や言語感覚の向上を目指すとともに、そこで扱われたテーマに対して自分はどう考えるのか、筋道立てて述べられる表現力とテーマに向き合おうとする主体的な態度を育てる。また、古文や漢文に親しみ、古人の生き方やものの考え方を学ぶことで、広い視野を育てる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

別紙参照

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、受講態度、ノート・課題・レポート等の提出状況 * さまざまな話題を自分の身近に引き寄せ、深く考える習慣をつける。
②話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	スピーチ、ディベート等の発表、相互評価シートの記述 * 相手に伝わりやすい話し方・相手が話しやすい聞き方を日頃から工夫する。 * 相手に応じた言葉遣いを心がける。 * 話題の順序をわかりやすく整理する。 * 必要なことを簡潔に話したり、聞き取ったりできるようにする。 * 相手の意見をしっかり受け止めると同時に、自分の考えを的確に主張できるようにする。
③書く能力 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	意見文・感想文・レポート等の記述 * 相手に伝わりやすい文章表現を日頃から工夫する。 * 相手に応じた言葉遣いを心がける。 * 文の順序・段落をわかりやすく整理する。 * 簡潔な文章を心がける。
④読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価します。	定期考査・ノートの記述・ワークシートの記述・発表内容など * 様々な文章に日頃から親しむ。 * 重要な語句や文章に傍線などのチェックを入れる。 * 文章の要約を書く。 * 問題演習などに取り組む。
⑤知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。	定期考査・小テスト・ワークシートの記述など * 積極的に辞書を引き、語彙力を増やす。 * 常用漢字を正確に読み書きできるようにする。 * 古典文法や漢文訓読のルールを知り、応用できるようにする。

4. 担当者からのメッセージ

国語総合では、文章・ことばに関するさまざまな理解や表現ができるための学習を行います。2年以降は「現代文」「古典」と授業自体が細分化するので、基本的な知識や考え方は、この1年の「国語総合」で身につけておく必要があります。5単位なので毎日授業があります。それだけ重要な授業だと認識してください。

年間学習計画

学期	単元	単元の目標	学習活動	評価方法	自己評価	教材	
1	随想 (一)	・文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりする。【関心・意欲・態度】	・文章を読んで、自分の身近なものに引きつけて考える。	行動の観察		教科書 『驚くという才能』	
		・文章を読んで、筆者の考えや意図をとらえる。【読む能力】	・筆者のものの見方や感じ方、表現の仕方を読み取り、要旨をまとめる。	記述の分析			
		・文脈に応じた語句の意味や用法などを理解する。【知識・理解】	・難解語句の意味を辞書で確認し、ワークシートに書き入れる。	記述の点検			
	スピーチ	・目的や場に応じて効果的に話そうとする。【関心・意欲・態度①】	・スピーチの目的・方法・注意点について考える。	行動の観察		教科書 「スピーチをする」	
		・相手の立場や考えを尊重して話し合おうとする。【関心・意欲・態度②】	・グループで練習をし、チェックシートをもとにして相互評価をする。	発言の分析			
		・ふさわしい話題を選択し、聞き手に理解してもらえるよう効果的に話す。【話す・聞く能力①】	・自分は何を伝えたいかを考えて話題を選択し、材料メモ・構成メモを作成する。 ・グループでの練習をふまえ、クラス全体でスピーチをする。	発表の分析			
		・話し手の考えを整理し、正確に聞き取る。【話す・聞く能力②】	・メモをとりながらスピーチを聞き、発表の内容の要点をつかむ。	記述の分析			
		・目的や場に応じた話し方や言葉遣いなどを身につける。【知識・理解】	・目的や場面に応じた話し方や言葉遣いを意識して発表する。	発表の分析			
	小説 (一)	・小説を読み味わうことで、自己の心情を豊かにしようとする。【関心・意欲・態度】	・「その後の下人」を想像して、『羅生門』の続編を800字以内で書く。	記述の分析		教科書 『羅生門』	
		・虚構の仕組みについて考え、細部の表現まで深く理解し、味わうことのできる力を養う。 ・主題をとらえ、人間の心理について考えを深める。【読む能力】	・「下人」のおかれている境遇や心理の変化をノートにまとめる。 ・「老婆」の主張する内容を要約し、記入する。 ・作品の主題について、各自が考えたことを発表し合う。	記述の分析 行動の観察			
		・文脈に応じた語句の意味や用法などを理解する。 ・作品の文学史上の位置を知る。【知識・理解】	・語句の意味を辞典で調べ、予習プリントに書き込む。 ・国語便覧を用いて作者について調べる。	記述の点検			
	古文入門 (説話)	・古典を読むことで、心情を豊かにする工夫をする。【関心・意欲・態度】	・説話のおもしろさを味わって古文の世界に親しみを持ち、心情を豊かにする。	行動の観察		教科書 「古文の学習」 『児のそら寝』『絵仏師良秀』	
		・古典を表現に即して読み味わう。【読む能力】	・古語と現代語の意味・用法の違いなどに注意しながら、内容を読み取り、あらすじをノートにまとめる。	記述の分析			
		・歴史的仮名遣いや文語のきまりなどを理解する。【知識・理解】	・音読を繰り返し、歴史的仮名遣いや文語のきまりなどを理解する。	記述の点検			
	中間考査						
	物語を楽しむ (古文)	・古語辞典の引き方に慣れ、適切な意味を探し、文章の内容を読み取る。【関心・意欲・態度】	・予習として古語辞典を引き、本文の具体的な場面を考えて適切な意味を探し、ノートに口語訳を書く。	記述の点検		教科書 『竹取物語』	
		・人物の心情や人物相互の関係をとりえ、場面を把握して内容を読み味わう。【読む能力】	・部分訳を利用しながら、叙述に即して内容を読み取る。	記述の分析 行動の観察			
		・用言の活用を理解する。【知識・理解】	・ワークシートを活用して、用言の活用を理解する。	記述の点検			

学期	単元	単元の目標	学習活動	評価方法	自己評価	教材	
	評論 (一)	・文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりする。【関心・意欲・態度】	・日本と欧米の文化の違いについて考えたこと、感じたことを文章にまとめる。	記述の分析		教科書 『水の東西』	
		・基本的な評論文の読解の仕方を理解する。【読む能力】	・段落分け、キーワードを押さえたまとめ・要約等を通して構成を理解し、筆者の主張を読み取る。	記述の分析			
		・文脈に応じた語句の意味や用法などを理解する。【知識・理解】	・難解語句の意味を辞書で確認し、ワークシートに書き入れる。	記述の点検			
	ブックレビュー	・相手や目的にふさわしい材料を選び、効果的な表現を考えて書く。【関心・意欲・態度】	・今までに読んだ本の中から、特に印象に残った数冊を選び、読み手を意識して書評を書く。	行動の観察		補助教材 「書く(ブックレビュー)」	
		・表現を工夫して、自分の考えをまとめる。【書く能力】	・本の内容や魅力など伝えたい事柄を整理し、表現を工夫して書く。	記述の分析			
		・書評にふさわしい文章の組立てを考え、語句の意味、用法及び表記などを理解する。【知識・理解】	・効果的な表現法を理解する。 ・書評を読み比べてお互いの優れた表現に接し、語彙を豊かにする。	記述の分析			
	漢文入門・ 故事成語	・漢文と日本文化の関係について考え、漢文の世界に親しみを持つ。【関心・意欲・態度】	・漢文が日本語・日本文化に与えた影響を知り、漢文の世界に親しみを持つ。 ・繰り返し朗読し、漢文独特の口調に慣れる。	行動の観察		教科書 「訓読に親しむ」 『漁父之利』 『狐借虎威』	
		・格言・故事成語の中に含まれている人間の知恵や人生訓について、正確に読み取る。【読む能力】	・書き下し文に直し、口語訳をつける。格言・故事成語の中に含まれている人間の知恵や人生訓について、正確に深く理解する。	行動の観察 記述の分析			
		・漢文の特色を知り、漢文の訓読のきまりを理解する。【知識・理解①】	・ワークシートを利用して漢文の訓読の基礎を学ぶ。	記述の点検			
		・格言・故事成語を、その原拠となった文章によって理解する。【知識・理解②】	・それぞれの格言が日常生活のどのような場面で用いられるか、発表する。	発表の分析			
	期末考査						
	2 詩	・朗読によって独特のリズムを味わい、詩に親しむ。【関心・意欲・態度】	・朗読し、独特のリズムを味わう。 ・初読の感想を書く。	行動の観察 記述の分析		教科書 『整のうへ』 『一つのメルヘン』 『自分の感受性くらい』 『I was born』	
		・それぞれの詩の主題をとらえ、読み比べて読みを深め、鑑賞力を養う。【読む能力】	・詩を読み比べ、それぞれの作者が「自然」「生命」といった対象にどのような気持ちを抱いているのかを考える。 ・「私の一編」を選び、好きな理由や気づいたことなどを文章にまとめる。	行動の観察 記述の分析			
		・詩の表現の特色について理解を深め、表記や修辭などの表現技法に関する知識を身につける。【知識・理解】	・それぞれの詩の表現上の特徴を発表し、その効果を考える。	発表の分析			
		詩の創作	・詩作を通じて、言葉の表現の可能性を考える。【関心・意欲・態度】	・自分が最も伝えたいことは何かを考え、テーマを絞る。	行動の観察		補助教材 「書く(詩)」
			・優れた詩の読解を通して得た成果を、自分の詩作に生かし、効果的な表現を工夫する。【書く能力】	・音韻やリズムなど、音読した場合の印象に関わる点と語彙や表記など、視覚的な印象に関わる点との両方から考え、効果的な表現を工夫して詩作をする。	記述の分析		
			・日本語の音韻の特色や語句の適切な使い方を理解する。【知識・理解】	・できあがった詩を交換して、生徒同士で相互評価し、推敲して完成させる。	記述の分析		

学期	単元	単元の目標	学習活動	評価方法	自己評価	教材
	随筆を読む (古文)	・古典に対する親しみを深め、中世の人々のものの見方や感じ方に関心を持つ。【関心・意欲・態度】	・『徒然草』と作者について既知の知識を発表する。 ・予習として、語彙・語法について辞典や文法書などを用いて調べておく。	行動の観察 記述の分析		教科書 『徒然草』
		・表現に即して内容を理解し、筆者の主張を読み取る。【読む能力】	・文章の構成や人物の描き方などに注意しつつ、『徒然草』を口語訳する。	記述の分析		
		・助動詞の意味・用法などを理解する。 ・対句や比喩などの表現技法を理解する。【知識・理解】	・ワークシートを活用して、助動詞の意味・用法を理解する。 ・対句や比喩などの表現技法を指摘する。	記述の分析		
	評論 (二)	・社会について広く関心を持ち、自分たちにとってそれがどのような意味をもつのかを考える。【関心・意欲・態度】	・ことばや名前の働きについて、身近なものから考え、自分の思いをノートに書く。	記述の分析		教科書 『ものとことば』
		・基本的な評論文の読解の仕方を理解する。【読む能力】	・段落分け、キーワードを押さえたまとめ・要約等を通して構成を理解し、筆者の主張を読み取る。	記述の分析		
		・文脈に応じた語句の意味や用法などを理解する。【知識・理解】	・難解語句の意味を辞書で確認し、ワークシートに書き入れる。	記述の点検		
	中間考査					
	古代の史話 (漢文)	・心情を豊かにし、人間や社会などに対して自分なりの考えを持つ。【関心・意欲・態度】	・それぞれの話について、一言ずつコメントを書く。	記述の分析		教科書 『十八史略』
		・話の展開に即して、内容を理解する力を身につける。 ・登場人物の生き方や考え方を読み取り、史話のおもしろさを味わう。【読む能力】	・書き下し文に直し、口語訳する。 ・それぞれの話のあらすじをノートにまとめる。	記述の点検		
		・訓読のきまりをしっかりと理解する。【知識・理解】	・置き字と再読文字に注意して書き下し文の練習をする。	記述の点検		
	レポート	・相手や目的に応じた題材を選び、相手によく伝わるような表現を工夫してまとめようとする態度を育てる。【関心・意欲・態度】	・題材を選ぶ	行動の観察		教科書 「調査をもとに報告する」
		・題材にふさわしい材料を収集、整理し、レポートの基本構成に従って文章にまとめる。【書く能力】	・図書館やコンピュータの資料を利用して、題材にふさわしい材料を収集する。 ・収集した材料をレポートの構成に従って整理する。 ・レポートの基本構成に従い、800字～1000字の報告文をまとめる。	記述の分析 行動の観察		
		・報告文にふさわしい文章の組立てや語句の意味・用法・表記などを理解する。【知識・理解】	・レポートの基本構成を理解する。 ・不十分な表現を直すなど、推敲してから清書する。	記述の分析		
	随想 (二)	・さまざまな生き方や考え方に触れて、社会や文化、人生について考える。【関心・意欲・態度】	・印象に残った表現や内容を箇条書きにする。 ・感想を発表する。	発表の分析		教科書 『交換は楽しい』
		・説明や描写を通して、個性的なものの見方や感じ方を読み取る。【読む能力】	・繰り返し用いられるキーワードを発見し、内容を要約する。	記述の分析		
		・文や文章の組立て、語句の意味・用法などを理解する。【知識・理解】	・予習プリントを用い、語句の意味や文脈に応じた使い方を理解する。	記述の点検		
	物語を楽しむ (古文)	・古文の中の物語世界を味わい、登場人物の心情を考える。【関心・意欲・態度】	・グループでのロールプレイを通して、登場人物の心情を話し合う。	行動の観察		教科書 『伊勢物語』
		・表現に即して内容を理解し、人物の関係性や心情を適切に把握している。【読む能力】	・助動詞に注意して、ノートに現代語訳を完成させる。	記述の分析		
		・助動詞の意味・用法などを正確に理解する。 ・和歌の修辞技法を理解する。【知識・理解】	・ワークシートを活用して、助動詞の意味・用法を理解する。 ・和歌に用いられている修辞技法を指摘する。	記述の点検		
期末考査						

学期	単元	単元の目標	学習活動	評価方法	自己評価	教材
3	和歌 (古文)	・和歌を繰り返し朗読し、優れた表現に親しむ。 ・日本の文化と伝統に対する関心をより深め、それらを尊重しようとする態度を養う。【関心・意欲・態度】	・和歌を繰り返し音読する。	行動の観察		教科書 『万葉集』『古今和歌集』 『新古今和歌集』 国語便覧 『小倉百人一首』
		・人々に親しまれてきた和歌や歌謡を読み味わい、鑑賞する力を養う。 ・和歌や歌謡に表れた日本人のものの見方、感じ方の伝統を学ぶ。【読む能力】	・それぞれの歌についての批評をノートに書く。 ・表現のおもしろさを味わう。	記述の点検		
		・和歌の修辞を理解する。【知識・理解】	・教科書に採録されていない和歌も用いて、修辞が理解できたかどうかの確認をする。	記述の点検		
	漢詩の鑑賞	・漢詩を朗読し、優れた表現に親しむ。【関心・意欲・態度】	・漢詩を繰り返し朗読して暗誦し、優れた表現に親しむ。	行動の観察		教科書 「唐詩の世界」
		・漢詩にうたわれた情景や作者の心情を読み取り、深く味わって詩的世界を理解する。【読む能力】	・解説や脚注を参照しつつ、口語訳をノートに書く。 ・それぞれの作品に描かれた情景を読み取り、作者の心情を味わう。	行動の観察 記述の点検		
		・押韻や対句に注意して、近体詩の形式や表現について理解する。【知識・理解】	・近体詩の形式や表現について理解できたかどうか、プリントを使用して確認する。	記述の点検		
	評論 (三)	・現代社会について述べられた文章を読み、物事を深く考える態度を養う。【関心・意欲・態度】	・メディアや科学の変化によって自分が受けている影響について考え、書く。	記述の分析		教科書 『「文化」としての科学』 『ネットが崩す公私の境』
		・文章の構成・展開を理解し、論旨を的確にとらえる。【読む能力】	・ワークシートを活用し、筆者が述べていることを、叙述をたどって整理する。	記述の点検		
		・漢字や語句について、文脈に応じた適切な使い方を理解する。【知識・理解】	・間違えやすい漢字は特に注意して、書き取りの練習を繰り返す。 ・語や慣用語の意味を調べる。	記述の点検		
	意見文	・相手や目的を意識し、それらにふさわしい表現方法を用い、伝えようとする態度を育成する。【関心・意欲・態度】	・評論で学んだテーマを自分の身近なところに引き寄せて考え、自分の意見を持つ。	行動の観察		教科書 「意見を述べる」
		・目的にふさわしい材料を取捨選択し、主張を明確にして相手によりうまく伝える方法を考えて書く。【書く能力】	・自分の意見をよりよく伝える構成を考える。	記述の分析		
		・文章展開の型を理解し、様々な表現方法を身につける。【知識・理解】	・「起承転結」の型を理解し、効果的に活用する。 ・主語・述語・修飾語などの文の成分の順序や照応関係に気をつけて書き上げ、丁寧に清書する。	記述の分析		
	日記を読む (古文)	・日記文学を読み味わい、古代に生きた人々の心情を理解する。【関心・意欲・態度】	・日記に描かれた作者の心情についてまとめる。	行動の観察		教科書 『土佐日記』
		・話の展開に即して、内容を理解する力を身につける。【読む能力】	・情景描写ややりとりに注意しながら、現代語訳を行う。	記述の点検		
		・様々な技巧を理解する。 ・語句の意味を理解し、正確に読む力を身につける。【知識・理解】	・用いられている様々な技巧について知り、プリントに記入する。	記述の点検		
	評論 (四)	・自己と社会とのかかわりを見つめ、物事を深く考える態度や習慣を養う。【関心・意欲・態度】	・自己のあり方や社会の姿について考え、生きることについて自分の考えを述べる。	行動の観察		教科書 『自分の身体』 『グローバル化の「遠近感」』
		・文章の構成・展開を理解し、論旨を的確にとらえる。【読む能力】	・筆者が述べていることを、叙述をたどって整理し、ノートに書く。	記述の点検		
		・漢字や語句について、文脈に応じた適切な使い方を理解する。【知識・理解】	・間違えやすい漢字は特に注意して、書き取りの練習を繰り返す。 ・語や慣用語の意味を調べる。	記述の点検		
						学年末考査

令和3年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	北稜探究 I	1	1年全コース	河村・本岡・竹中 竹松・澤田
教科書		副教材	『ブレ小論文チャレンジノート』(第一学習社) 『小論文チャレンジノートvol.1』(第一学習社) クリアカラー国語便覧(数研出版)	

1. 学習の目標

- ・自ら課題を見つけ、学び、考える力を身につける。
- ・主体的・創造的・共同的に問題解決に取り組む姿勢を身につける。
- ・自らの考えをまとめ、表現する力を身につける。
- ・日本の古典芸能(狂言)に触れ、伝統文化に関する興味関心を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考查対策等について)

定期考查は実施せず、毎時間ごとの参加と課題提出が基本となるので、欠席をせず、時間内に課題を仕上げるように取り組む。スピーチや発表では、話すこと、聞くことに積極的に取り組む。グループワークでは、様々な価値観を持つ他者と交流し、意見を交換しながらまとめていくようにする。年間を通して宿題の提出が必修なので、丁寧に取り組み、必ず期限内に提出する。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考查までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする意欲や態度を評価します。	遅刻や欠課をすることなく、積極的に授業に組み込み、課題を期限内に丁寧に仕上げるように取り組むことで評価する。
②話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	スピーチや発表、グループワーク等で、自分の考えを適切な態度と表現で他者に伝えることができるか、また、他者の言葉を適切な態度で聞き、理解することができるかを、授業状況や、相互評価により評価する。相互評価は、その取り組み自体が評価の対象である。
③書く能力 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	自分の考えをまとめ、適切な表現で文章化することができるか、課題のレポートや、小論文模試により、評価する。
④読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価します。	課題の書籍や文章を読み、その内容が的確に理解できているかどうかを、課題レポートや発表により、評価する。
⑤知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。	場面や相手に応じて、適切な語彙や表現を用い、正しい表記ができているかどうかを、課題レポート等によって評価する。

4. 担当者からのメッセージ

上記にあるように、その時間ごとの活動がそのまま評価につながる場合が大半です。また、課題の提出も多く求められています。授業の活動に積極的に参加し、課題は必ず期限内に丁寧に仕上げて提出してください。

年間学習計画

学期	単元	単元の目標	学習活動	評価方法	自己評価	教材
1	オリエンテーション 読書課題①	・新書を読んで、世の中に興味を持つ。 【関心・意欲・態度】	・豊かな知識を得るために広い視野を持つ。	行動の観察		
		・自分の感想を適切に書くことができる。 【書く能力】	・本文の特に興味を持った点を中心に感想を書く。	記述の点検		
		・内容を的確に要約できる。【読む能力】	・本文のポイントとなるキーワードを押さえて要約する。	記述の分析		
		・様々な分野の知識を習得できたか。 【知識・理解】	・様々な分野に必要な知識を積極的に得る。	記述の分析		
	NIE活動	・世の中で起きていることについて関心を持つ。【関心・意欲・態度】	・豊かな知識を得るために広い視野を持つ。	行動の観察		
		・本文を的確に書き写すことができる。 【書く能力】	・書写のルールに注意しながら本文を丁寧に写す。	記述の点検		
		・内容を的確に要約できる。【読む能力】	・本文のポイントを押さえながら読む。	記述の分析		
		・コラムの要約等を通じて、語彙を豊かにすることができる。【知識・理解】	・本文を理解するために必要な語彙を調べる。	記述の点検		
	スピーチ準備	・自ら進んでコミュニケーションをとる態度を養えたか。【関心・意欲・態度】	・話している相手が話しやすくなるように、積極的に聞く。	行動の観察		
		・的確にインタビューが行えたか。 【話す・聞く能力】	・文脈と場面に沿って、何が言われたかを理解する。	行動の観察		
		・インタビュー後のまとめと原稿作りが的確に行えたか。【書く能力】	・相手のことを知らない人にも、人柄が伝わるように原稿を書く。	記述の分析		
		・スピーチを的確に聞き取ることができたか。【読む能力】	・スピーチする姿勢や言葉遣いに注目しながら聞く。	記述の点検		
		・スピーチに必要な基礎知識を知ることができたか。【知識・理解】	・聞いて理解したことを、自分の言葉でとらえ直す。	記述の点検		
	スピーチ実践	・スピーチを聞く態度が的確であったか。【関心・意欲・態度】	・話している相手の顔を見て、うなづいたり、あいづちを打ったりする。	行動の観察		
		・スピーチの声・姿勢が的確であったか。【話す・聞く能力】	・相手を尊重する聞く姿勢を意識して、しっかりと話を聞く。	行動の観察		
		・インタビュー後のまとめと原稿作りが的確に行えたか。【書く能力】	・相手の話に対する自分の感想・考えをまとめる。	記述の分析		
		・スピーチを的確に聞き取ることができたか。【読む能力】	・スピーチする姿勢や言葉遣いに注目しながら聞く。	行動の観察		
		・スピーチに必要な基礎知識を習得できたか。【知識・理解】	・話すときは相手のことを考え、聞くときは話に興味を持つ。	記述の点検		
	文章表現の基礎 (小論文ガイダンスを含む)	・小論文模試につながる基礎知識を、主体的に取り組むことができたか。【関心・意欲・態度】	・様々な社会問題に対して、日頃から興味や関心を持ち、正しい知識と自分の意見を持つ。	行動の観察		『ブレ小論文 チャレンジノート』 (第一学習社)
		・原稿用紙の基本的なルールを守って、文章構成ができる。【書く能力】	・原稿用紙の使い方、表記上のルールを確認する。	記述の分析		
		・文章表現の基礎的な知識を習得できたか。【知識・理解】	・文章表現や表記上の注意点を確認する。	記述の点検		
	小論文模擬試験	・小論文として理由根拠を明示し、論理的に構成することを意識できたか。【話す・聞く能力】	・自分の考えを読み手に正しく理解してもらうために、意見だけではなく、理由(根拠)の説明をする。	行動の観察		
		・小論文として理由根拠が明示された論理的な構成にすることができたか。【書く能力】		記述の分析		
		・課題文に取り上げられている諸問題の背景について正しい理解ができたか。【知識・理解】	・課題文型小論文に必要な、読み取った内容と関連づけて自分の意見を持つ。	記述の分析		
	「ブックレビュー」の作成	・読書の面白さを伝えることができたか。【関心・意欲・態度】	・これから読む人のことを考えて、ポイントをしばって伝える。	行動の観察		
		・自分の動める本を的確に紹介できたか。【書く能力】	・興味を持ったところや面白かったところを、具体的に紹介する。	記述の分析		
		・他の人の紹介文を的確に読み取ることができたか。【読む能力】	・面白いところや印象深いところに注目し、紹介された本の魅力を読み取る。	記述の分析		
		・ブックレビューの作成方法を理解できたか。【知識・理解】	・ただ本を紹介するだけでなく、自分なりに選んだ本の新たな魅力を発見する。	記述の点検		
2	読書課題②	・新書を読んで、世の中に興味を持つ。 【関心・意欲・態度】	・豊かな知識を得るために広い視野を持つ。	行動の観察		
		・自分の感想を適切に書くことができる。 【書く能力】	・本文のとくに興味を持った点を中心に感想を書く。	記述の点検		
		・内容を的確に要約できる。【読む能力】	・本文のポイントとなるキーワードを押さえて要約する。	記述の分析		

		・様々な分野の知識を習得できたか。 【知識・理解】	・様々な分野に必要な知識を積極的に得る。	記述の 点検	
NIE活動	・世の中で起こっていることについて関心を持つ。【関心・意欲・態度】	・豊かな知識を得るために広い視野を持つ。	行動の 観察		
	・原稿用紙の基本的なルールを守って、本文を的確に書き写すことができる。【書く能力】	・書写のルールに注意しながら本文を丁寧に写す。	記述の 点検		
	・内容を的確に要約できる。【読む能力】	・本文のポイントを押さえながら読む。	記述の 分析		
	・コラムの要約等を通じて、語彙を豊かにすることができる。【知識・理解】	・本文を理解するために必要な語彙を調べる。	記述の 点検		
伝統文化に触れる	・日本の伝統文化を鑑賞する態度を養えたか。【関心・意欲・態度】	・自文化を理解する体験を通して、異文化に対する興味や関心を養う。	行動の 観察		
	・狂言を鑑賞して理解できたか。【話す・聞く能力】	・日本の代表的な伝統芸能を舞台で体験して、表現活動のもつ意義や魅力を学ぶ。	記述の 点検		
	・古典芸能の所作を理解し、表現することができたか。【書く能力】	・事前学習で学んだことを生かして舞台を鑑賞し、印象に残ったところなどを感想に書く。	記述の 分析		
	・古典芸能の所作を理解することができたか。【読む能力】	・ワークショップの所作指導を実際に見ることで、狂言の所作を理解する。	記述の 点検		
	・狂言についての知識を身につけられたか。【知識・理解】	・小道具や装束などの知識をふまえて、人間味あふれる狂言の魅力を体感する。	行動の 観察		
小論文トレーニング	・まとまった文章に取り組もうとすることができたか。【関心・意欲・態度】	・課題に沿って文章の書き方を身につける。	行動の 観察		『小論文 チャレンジノート vol.1』 (第一学習社)
	・表記上のルールを理解できたか。【知識・理解】	・作文と小論文の違いを理解する。	記述の 点検		
小論文模擬試験	・小論文として理由根拠を明示し、論理的に構成することを意識できたか。【話す・聞く能力】	・自分の考えを読み手に正しく理解してもらうために、意見だけではなく、理由(根拠)の説明をする。	行動の 観察		
	・小論文として理由根拠が明示された論理的な構成にすることができたか。【書く能力】		記述の 分析		
	・課題文に取り上げられている諸問題の背景について正しい理解ができたか。【知識・理解】	・課題文型小論文に必要な、読み取った内容と関連づけて自分の意見を持つ。	記述の 分析		
3 NIE活動	・世の中で起こっていることについて関心を持つ。【関心・意欲・態度】	・豊かな知識を得るために広い視野を持つ。	行動の 観察		
	・原稿用紙の基本的なルールを守って、本文を的確に書き写すことができる。【書く能力】	・書写のルールに注意しながら本文を丁寧に写す。	記述の 点検		
	・内容を的確に要約できる。【読む能力】	・本文のポイントを押さえながら読む。	記述の 分析		
	・コラムの要約等を通じて、語彙を豊かにすることができる。【知識・理解】	・本文を理解するために必要な語彙を調べる。	記述の 点検		
コンセンサスゲーム 砂漠 NASA(宇宙)					
	・グループ活動を活気あるものにするため、主体的に取り組もうとすることができたか。【関心・意欲・態度】	・グループで個人の意見を出し合い、コンセンサスを得るために話し合う。	行動の 観察		
	・自分の意見を根拠を持って主張でき、他のメンバーの意見を引き出すよう努力できたか。【話す・聞く能力】	・少数意見も大事に、自分の意見は根拠を述べるようにする。	行動の 観察		
	・自分が置かれた状況や条件などを的確に読み取ることができたか。【読む能力】	・自分が気づけなかったところがあれば、気づいたメンバーと意見交換し理解を深める。	記述の 分析		
	・コンセンサス(合意)を得るために、必要なことや役立つことについて理解できたか。【知識・理解】	・他の人と意見が食い違った場合や、相手を説得するために必要なことや役立つことを振り返る。	記述の 点検		

国語科ルーブリック(提出物評価)

	A	B	C	D
関心・意欲・態度	期限内に提出でき ており、すべての課 題に取り組んでい る。	期限内に提出。空 欄が少しある。	期限超過(1週間以 内)ですべての課題 に取り組んでいる。 または、期限内の提 出だが空欄が多くあ る。	期限を1週間以上 超過。

国語科ルーブリック(提出物評価)

	A	B	C	D
知識・理解	すべての課題が誤 りなくできている。	誤り・空欄が1箇所 ある。	誤り・空欄が2箇所 以上ある。	誤り・空欄が半分以 上ある。

国語科ルーブリック(書くこと)

	A	B	C	D
書くこと	適切な表現を用い て、自分の考えや意 見を述べることがで きている。	一部表現・表記に誤り があるが、自分の考え や意見を述べることが できている。	表現の誤りや言葉 足らずの部分があ り、考えや意見が伝 わりにくい。	自分の考えや意見 を述べていない。

国語科ルーブリック(発表)

	A	B	C	D
話すこと①	適切な表現を用い て、自分の考えや意 見を述べることがで きている。	一部表現に誤りが あるが、自分の考え や意見を述べること ができている。	表現の誤りや言葉 足らずの部分があ り、考えや意見が伝 わりにくい。	自分の考えや意見 を述べていない。
話すこと②	顔を上げ、前を向い て、大きな声で発表 ができている。	時々下を向くことが あるが、大きな声で 発表できている。	下を向くことが多く、 聞き取ることはでき るが声が小さい。	声が小さく、聞き取 ることができない。
聞くこと	きちんとメモを取り ながら話を聞くこと ができている。	メモに不十分な点は あるが、発表者の方 を見て聞く姿勢を とっている。	メモに不十分な点が 多い。	私語や居眠りなどを している。

国語科ルーブリック(グループワーク)

	A	B	C	D
関心・意欲・態度	学習テーマをよく理 解し、積極的にグ ループ内の役割を 担っている。	学習内容を理解し、 協力して取り組むこ とができている。	学習内容は理解し ているが、積極的に 参加する意欲に欠 けている。	促されるまでグルー プワークに参加しな い。

令和3年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
地歴公民	現代社会	2	1年全コース	中野 松原
教科書	高等学校 新現代社会 (帝国書院)	副教材	高等学校 新現代社会ノート(帝国書院)	

1. 学習の目標

現代の社会を取り巻く様々な問題を、環境問題・人権問題・選挙制度・国際問題などの観点を中心に学ぶ。起きている事象を単に知識として知るだけでなく、論理的・合理的にとらえ、原因や影響も考えていく力をつける。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

授業での学びへの参加を大切にする。ノートの取り方を工夫して、板書の他にもノートの取り方を工夫し、自分のノートを作成していくようにする。今授業で何に取り組んでいるかを確認しながら、教科書を読む・作業に取り組むようにする。家庭学習の時間を定期的に設け、復習を欠かさない。新聞やテレビのニュース等に関心をもって積極的に読む観るようにして、授業で学んでいることが、現実の社会の課題であることを実感できるようになる。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出欠状況、レポート、ノート提出など
②思考・判断 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	授業で学び、教科書等に表示されている事象が現実の身の回りの暮らしに関わっていることが考えられる。 定期考査 レポートなど
③技能・表現 各教科科目 において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	教材となる資料の表やグラフ・図などから適切な知識を得ることができる。理解したことや自分の見解を文章に表現できる。 定期考査・レポート
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	定期考査・レポート

4. 担当者からのメッセージ

授業を大切に、ノートの取り方を工夫する。板書を写すだけでなく、説明をよく聞き、今何を学習しているか常に確認しながら授業を受けること。復習のための家庭学習時間を習慣化すること。新聞やTVのニュースにも関心を持つようしよう。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	現代社会の諸問題とそのとらえ方	地球環境問題と政治や経済との関係を理解する	自己評価()
	近代立憲主義の原理	政治と憲法の関わりを理解する	自己評価()
	近代立憲主義の広がり	民主主義と憲法の関わりを理解する	テストまとめプリント 中間考査
	日本国憲法	日本国憲法の成立を理解する 日本国憲法の原理を理解する	自己評価() 自己評価() テストまとめプリント 期末考査
2	様々な人権	憲法に規定されている基本的人権を理解すると共に現実の問題点を	JICAエッセイコンテスト 税に関する作文
	国民主権と議会制民主主義	政治の仕組み・政府の組織等を理解し、主権者としての知識を身に	自己評価()
	国会の仕組み		自己評価()
	内閣の役割		テストまとめプリント 中間考査
	世界の政治制度	政治制度のあり方や政党のあり方などの知識を深め、主権者としての判断能力を養う	自己評価()
	政党政治と選挙制度		自己評価()
3	市場経済の仕組み	資本主義経済の仕組みを理解する	自己評価() テストまとめプリント 期末考査
	国際経済の動向と貧困の解消	経済のグローバル化について理解 世界の問題について知識を深める	校外研修調べ学習 自己評価()
	国際政治と平和の追求	国際社会の仕組みと戦争や紛争の問題を理解し、日本の防衛問題や国際連合について理解を深める	自己評価() テストまとめプリント 学年末考査

自己評価 D=余り理解できてし C=教科書の太字程度はわかった
B=ノート教科書はほぼ理解 A=理解した上で問題点について考えられる

令和3年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	数学Ⅰ＋A	3＋2	1年スタンダードコース	高田・畠中・岸田・ 中田・角谷
教科書	改訂版 高等学校 数学Ⅰ 改訂版 高等学校 数学A (数研出版)	副教材	教科書傍用 REPEAT 数学Ⅰ＋A (数研出版)	

1. 学習の目標

【数学Ⅰ】数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。論理的思考力を養い、事象を数学的に考察する能力と態度を育てる。

【数学A】場合の数と確率、図形の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。論理的思考力を養い、事象を数学的に考察する能力と態度を育てる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(授業・予習・復習・考查対策等について)

【授業】しっかり集中して授業を聞き、指示された問題を解いて理解を深めること。疑問点は何でも質問してください。

【予習】教科書を読み、次に何を学ぶのかアウトラインをつかんでおくことで授業内容が理解しやすくなります。

【復習】授業で解説した問題とその類似問題(問題集を利用)を何度も解きしっかりと基礎を身に付けましょう。
宿題や課題を必ず解いて提出し、小テスト前にも復習すること。

【考查対策】定理・公式などをまとめて、学んだ内容の全体像をつかみ、応用・発展問題にも取り組みましょう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、授業態度、課題(ノート)・作品等の提出状況、課題(ノート)・作品等の内容
②数学的な見方や考え方 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考査、小テスト、課題(ノート)等・作品の内容、グループ発表及び個人での課題発表の内容
③数学的な技能 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	

4. 担当者からのメッセージ

「数学なんて、生きていくうえで必要ない！」そう思っている人、いませんか？生きていくうえで必要なものって何でしょう。いろいろな人と関わりあって生きていくためには、相手に自分の考えを伝え、理解してもらう必要がありますよね。そのためには感情論ではなく、筋道の通った話ができればいいですね。また、誤った議論を見分け、正しい判断をするためにも数学で養われる論理的思考力が大切になります。創意工夫し、楽しみながら、人類が育ててきた財産を身につけていきましょう。

年間学習計画

学期	学習内容	到達目標			学習活動
	到達レベル	レベル1	レベル2	レベル3	
1	【数学Ⅰ】 整式の加法と減法	☐ 単項式や多項式、次数などの用語の意味を理解できる。	☐ 降べきの順などの指数による整式の整理ができる。	☐ 整式の加法と減法の計算ができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
	整式の乗法	☐ 展開の意味を理解できる。	☐ 指数法則、分配法則を理解できる。	☐ 展開の公式を用いて、整式の積を展開できる。	
	因数分解	☐ 因数分解の意味を理解できる。	☐ 共通因数でくることができ。 ☐ 中学で学んだ因数分解の公式を利用できる。	☐ たすき掛けを用いて因数分解を行うことができる。	
	実数	☐ 有理数や実数などの用語の意味を理解できる。	☐ ささまざまな数の範囲での四則計算について理解できる。	☐ 絶対値を数直線を用いて理解できる。 ☐ 有理数のみの絶対値の値を求めることができる。	
	根号を含む式の計算	☐ 平方根の意味を理解し、根号の記号を利用できる。	☐ 根号の性質を理解し、根号を含む式の計算ができる。	☐ 分母の有理化を行うことができる。	
	1次不等式	☐ 和と差に関する不等式の性質が理解できる。	☐ 積と商に関する不等式の性質を理解できる。	☐ 不等式の性質を利用して、1次不等式を解くことができる。	
	絶対値を含む方程式・不等式		☐ 絶対値を含む方程式を解くことができる。	☐ 絶対値を含む不等式を解くことができる。	
	関数とグラフ	☐ 1次関数 $y=ax+b$ (a, b は定数)のグラフをかくことができる。	☐ 2つの数量の関係を式で表現できる。	☐ $y=f(x)$ や $f(a)$ の表記を理解しており、用いることができる。	
	2次関数のグラフ	☐ 2次関数 $y=ax^2$ の形や軸、頂点について理解している。	☐ $y=ax^2+q, y=(x-p)^2, y=(x-p)^2+q$ などの表記について、グラフの平行移動とともに理解している。	☐ 平方完成を利用して2次関数 $y=ax^2+bx+c$ のグラフの軸と頂点を調べ、グラフをかくことができる。	中間考査(80分)
	2次関数の最大・最小	☐ 2次関数が最大値または最小値をもつことを理解している。	☐ $y=ax^2+bx+c$ を $y=a(x-p)^2+q$ の形にして、最大値・最小値を求めることができる。	☐ 2次関数の定義域に制限がある場合に、最大値・最小値が求められる。	
	2次関数の決定	☐ 放物線の頂点や軸の条件が与えられているとき、基本形 $y=a(x-p)^2+q$ を用いて関数を決定することができる。	☐ 連立3元1次方程式の解き方を理解し、異なる3点を通る放物線を一般形 $y=ax^2+bx+c$ を用いて関数を決定することができる。	☐ 放物線とx軸との2交点が与えられているとき、分解形 $y=a(x-\alpha)(x-\beta)$ を用いて関数を決定することができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
	2次方程式	☐ 2次方程式の解き方として、因数分解利用、解の公式利用を理解している。	☐ 2次方程式がどんな場合でも解ける。	☐ 2次方程式の解の考察において、判別式 $D=b^2-4ac$ の符号と実数解の関係を理解し、利用することができる。	
	2次関数のグラフとx軸の位置関係	☐ 2次関数のグラフとx軸の共有点の座標が求められる。	☐ 2次関数のグラフとx軸の共有点の個数を求めることができる。	☐ 2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を $D=b^2-4ac$ の符号から考察することができる。	
	2次不等式	☐ 1次関数のグラフと1次不等式の関係から、2次不等式の場合を考えようとする。	☐ 2次不等式を解くことができる。	☐ 2次の連立不等式を解くことができる。	期末考査(80分)
	【数学A】 三角形の辺の比	☐ 内分・外分の意味を理解できる。	☐ 内分点・外分点を図示できる。	☐ 角の二等分線の定理を理解できる。	
	三角形の外心、内心、重心	☐ 外心・内心・重心の定義を理解できる。	☐ 外心・重心・内心を図示できる。	☐ 外心・内心・重心の性質を利用して角の大きさや辺の長さを求めることができる。	
	チェバの定理・メネラウスの定理	☐ チェバの定理を用いて、線分の長さの比を求めることができる。	☐ メネラウスの定理を用いて、線分の長さの比を求めることができる。	☐ チェバの定理・メネラウスの定理を理解し、使い分けることができる。	

円に内接する四角形	□円に内接する四角形の性質を理解できる。	□円周角の定理や円に内接する四角形の性質を用いて、単純な図形の角の大きさを求めることができる。	□円周角の定理や円に内接する四角形の性質を用いて、複雑に入り組んだ図形の角の大きさを求めることができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 作品課題 グループ学習 など
円と直線	□接線の長さの定理や接線と弦の作る角の定理や方べきの定理を理解できる。	□接線の長さの定理や接線と弦の作る角の定理や方べきの定理を用いて、単純な図形の角の大きさや線分の長さを求めることができる。	□接線の長さの定理や接線と弦の作る角の定理や方べきの定理を用いて、複雑に入り組んだ図形の角の大きさや線分の長さを求めることができる。	
【数学Ⅰ】 集合	□集合の用語が理解できる。	□集合を{}を用いて表すことができる。	□記号を用いて集合を表すことができる。	
命題と条件	□命題や真、偽、条件などの用語を理解できる。	□命題を習合を用いて捉えることができる。	□命題の真、偽の判定ができる。	
命題と証明	□逆・対偶・裏の用語を理解できる。	□命題から逆・対偶・裏を述べることができる。	□対偶を用いて証明できる。	
【数学A】 集合の要素の個数	□和集合や補集合について理解し、その要素の個数を求めることができる。	□ベン図を利用して集合を図示することで、要素の個数を考察することができる。	□和集合、補集合の要素の個数の公式を利用して和集合や補集合の要素の個数を求めることができる。	数学Ⅰ・A合わせて 中間考査(80分)
場合の数	□樹形図、和の法則、積の法則を理解している。	□樹形図、和の法則、積の法則の利用場面を判断できる。	□樹形図、和の法則、積の法則を用いる基本問題が解ける。	
順列	□順列の総数、階乗を記号で表し、それを活用できる。	□順列、円順列、重複順列の公式を理解できる。	□場合の数を、順列、円順列、重複順列に帰着させて求めることができる。	
組み合わせ	□順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。	□組合せの総数を記号で表し、それを活用できる。	□条件が付く組合せを、処理することができる。 □組み分けや同じものを含む順列の総数を求めることができる。	
事象と確率	□試行の結果を集合と結びつけて、事柄の起こりやすさを数量的にとらえることができる。	□確率の定義が理解でき、数え上げで処理できる問題が解ける。	□順列、組み合わせを用いて確率の基本問題が解ける。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
確率の基本性質	□積事象、和事象の定義を理解している。	□集合の性質を用いて、確率の性質を一般的に考察することができる。	□排反事象、余事象の確率を用いる基本問題が解ける。	
独立な試行と確率	□独立な試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。	□独立な試行の確率を、公式を用いて求めることができる。	□独立試行の確率を、余事象の確率や加法定理などを用いて求めることができる。	
条件付き確率	□条件付き確率の定義が理解できる。	□条件付き確率の基本計算ができる。	□確率の乗法定理を用いて2つの事象がともに起こる確率を求めることができる。	
【数学Ⅰ】 三角比	□正弦、余弦、正接が何かわかる。 □三角比の表から様々な角度の三角比を求めることができる。	□30° 45° 60° の直角三角形の辺の比がわかるとともにその三角比を求めることができる。	□三平方の定理を利用して三角比を求めることができる。 □三角比と三角比の表を利用して角の大きさや辺の長さを求めることができる。	期末考査(50分)
三角比の相互関係	□三角比の相互関係の式を知っている。	□三角比の相互関係の式を利用して、1つ三角比を与えられたときに残りの2つの三角比を求めることができる。(鋭角の場合)	□三角比の相互関係の式が三平方の定理等から成り立つことを知っている。	

	三角比の拡張	□鈍角の有名角の三角比について、座標を用いた三角比の定義で理解することができる。	□ $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ の三角比について、そのとりうる値の範囲について理解している。 □ $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ の有名角の三角比を表でまとめることができる。	□ $180^\circ - \theta$ 、 $90^\circ - \theta$ の三角比の関係式を理解し、鈍角の三角比を三角比の表から読みとることができる。 □比の値や角の条件に気を付けて、1つ三角比を与えられたときに残りの2つの三角比を求めることができる。
	正弦定理	□正弦定理の公式を理解している。	□どのようなときに正弦定理を利用すればよいか一般的な条件を理解している。	□正弦定理を利用すべきところで利用し、式をたてて計算することができる。
	余弦定理	□余弦定理の公式を理解している。	□どのようなときに余弦定理を利用すればよいか一般的な条件を理解している。	□余弦定理を利用すべきところで利用し、式をたてて計算することができる。 □三角形の3辺より鋭角、直角、鈍角の判定をすることができる。
	正弦定理と余弦定理の応用	□問題文から与えられた情報をすべて図示し、求めるものが何かを把握できる。	□求めたいものはどのような定理を利用すれば求めることができるかを考え、実際式をたてて求めることができる。	□三角形の辺と角の決定の様々なパターンを解くことができる。
	三角形の面積	□三角形の面積の公式を理解している。	□どのようなときに三角形の面積の公式を利用すればよいか一般的な条件を理解し、実際に求めることができる。	□3辺がわかっているときの三角形の面積の求め方を理解し、順をおって求めることができる。
3	円に内接する四角形など			□三角形の内接円の半径や円に内接する四角形に関する問題を解くことができる。
	空間図形への応用	□問題文から空間図形を描くことができる。	□着目する平面、定理を考え、式をたてて求めることができる。	□様々な立体の断面積や長さを求めることができる。
	データの整理	□度数分布表やヒストグラムの意味を理解することができる。	□データから度数分布表やヒストグラムを作ることができる。	□度数分布表やヒストグラムを読み取り、データを分析し考察することができる。
	データの代表値	□データの代表値の意味を理解することができる。	□データの代表値を求めることができる。	□度数分布表やヒストグラムから代表値を求めることができる。
	データの散らばりと四分位数	□四分位数や四分位範囲などの意味が理解できる。	□四分位数や四分位範囲などを求めることができる。	□箱ひげ図を理解し、四分位数から箱ひげ図を描くことができる。
	分散と標準偏差	□分散と標準偏差の意味が理解できる。	□データの分散と標準偏差を定義から求めることができる。	□データの分散と標準偏差を公式から求めることができる。 □複数のデータを比較して分析し考察することができる。
	データの相関	□データの相関関係を理解することができる。	□データの相関関係と散布図の関係を理解することができる。	□相関係数を理解し、計算で求めることができる。
【数学Ⅱ】	3次式の展開・因数分解	□3乗の展開公式を理解し、展開することができる。	□3乗の因数分解の公式を理解し求めることができる。	□6次式の因数分解ができる。
	パスカルの三角形	□パスカルの三角形について理解している。	□パスカルの三角形を利用して4乗の展開ができる。	□パスカルの三角形を利用して $(a+b)^n$ の展開ができる。 ※ n が5以上
	二項定理	□二項の式の n 乗の展開をしたときの係数を C を用いて計算することができる。	□二項定理を利用して、 $(a+b)^n$ の展開ができる。	□一般項を考えて、指定された項の係数を求めることができる。
	整式の割り算	□降べきの順になった整式の割り算の筆算をして商と余りを求めることができる。	□やや複雑な整式の割り算の筆算をして商と余りを求めることができる。	□ある文字に着目して整式の割り算の筆算ができる。

小テスト
課題(ノート)提出
課題発表
グループ学習 など

期末考査(50分)

小テスト
課題(ノート)提出
課題発表
グループ学習 など

中間考査(50分)

小テスト
課題(ノート)提出
課題発表
グループ学習 など

等式の利用	☐ 関係式 $A=BQ+R$ の意味がわかる。	☐ 問題文を読んで、 $A=BQ+R$ の式の形にすることができる。	☐ 商や余りが先にわかっているときの割った整式や割られた整式を求めることができる。
分数式とその計算	☐ 既約分数式と分数式の意味がわかる。 ☐ 分数式の約分ができる。	☐ 分数式の四則計算ができる。(通分が必要でないもの)	☐ 分数式の四則計算ができる。(通分が必要なもの)
恒等式	☐ 恒等式と方程式の違いが見分けることができる。	☐ 恒等式の性質を利用して、様々な文字係数を求めることができる。	☐ 恒等式の性質を利用して、様々な文字係数を求めることができる。(恒等式が分数式を含むもの)

学年末考査(50分)

到達レベル	1	2	3
【ノート提出】 意欲・関心	問題集を用いて、テスト範囲の問題ができていない。	問題集を用いて、一通りテスト範囲の問題演習ができています。	問題集を用いて、一通りテスト範囲の演習を済ませたうえで、反復練習をしたり、理解するための工夫をしている。
【冬の課題研究】 意欲・関心	課題を提出していない。	測量をし、課題を提出した。	測量をし、三角比を用いた正しい計算式によって建物などの高さを算出した。
【グループワーク】 知識・理解	学習内容を説明することができない。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を説明することができる。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を論理的に簡潔に説明することができる。
【グループワーク】 協働的態度	共同作業の中で、自分の意見を出したり、話し合った内容をまとめたりできない。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、話し合った内容をまとめたりできる。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、他の人の意見をまとめたりして、グループで思考の仮定を共有することができる。

令和3年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	数学Ⅰ・A	4+2	1年アドバンスコース	角谷 中田 岸田
教科書	高等学校 数学Ⅰ (数研出版) 高等学校 数学A (数研出版)	副教材	4プロセス数学Ⅰ+A (数研出版) チャート式数学Ⅰ+A (数研出版)	

1. 学習の目標

数と式、図形と計量、二次関数、データの分析、場合の数と確率、図形の性質、制すの性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習: 覚えるべき定義・定理・公式などをまとめる

復習: 授業で学習した内容の定着を図る。そのために、教科書傍用傍用問題集に取り組む。

考査対策: 傍用問題集を用いて、普段の学習内容の復習、および発展的な内容の問題に取り組む。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、授業態度、課題(ノート)・作品等の提出状況、課題(ノート)・作品等の内容
②数学的な見方や考え方 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考査、小テスト、課題(ノート)等・作品の内容、グループ発表及び個人での課題発表の内容
③数学的な技能 各教科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	
④知識・理解 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	

4. 担当者からのメッセージ

よく、「数学なんてできなくても生きていけるわ」という言葉を聞きます。確かに、できなくても生きていけるかもしれませんが、でも、「論理的に考え、それを相手に伝える」という能力を持っていると、もっと生きやすくなります。数学は、その『論理的に考え、それを相手に伝える』能力を付けるのにはもってこいの教科です。自分が得た知識を組み立て、答えを導く、そんな練習の場だと思ってもらえると幸いです。

年間学習計画

学期	学習内容	到達目標					学習活動
	到達レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	
1	【数学Ⅰ】						
	整式の加法と減法	□単項式や多項式、次数などの用語の意味を理解できる。	□降べきの順などの指数による整式の整理ができる。	□整式の加法と減法の計算ができる。	□特定の文字に着目し、整式の整理や加法、減法の計算ができる。		
	整式の乗法	□展開の意味を理解できる。	□指数法則、分配法則を理解できる。	□展開の公式を用いて、整式の積を展開できる。	□複雑な式の展開を、工夫して計算しやすくできる。	□3次の展開公式を活用できる。	
	因数分解	□因数分解の意味を理解できる。	□共通因数でくくることができる。	□たすき掛けを用いて因数分解を行うことができる。	□複雑な式の因数分解を、工夫して行うことができる。	□3次の因数分解の公式を活用できる。	
	実数	□有理数や実数などの用語の意味を理解できる。	□さまざまな数の範囲での四則計算について理解できる。	□絶対値を数直線を用いて理解できる。	□無理数を含む絶対値の値を求めることができる。	□場合分けを用いて絶対値の値を求めることができる。	
	根号を含む式の計算	□平方根の意味を理解し、根号の記号を利用できる。	□根号の性質を理解し、根号を含む式の計算ができる。	□分母の有理化を行うことができる。	□根号を含む数の整数部分小数部分を求めようことができ、さまざまな計算に利用できる。		
	1次不等式	□和と差に関する不等式の性質が理解できる。	□積と商に関する不等式の性質が理解できる。	□不等式の性質を利用して、1次不等式を解くことができる。	□連立不等式を解くことができる。	□不等式を用いた文章題を解くことができる。	
	絶対値を含む方程式・不等式		□絶対値を含む方程式を解くことができる。	□絶対値を含む不等式を解くことができる。	□場合分けを用いて、絶対値を扱う方程式・不等式を解くことができる。		
	関数とグラフ	□1次関数 $y=ax+b$ (a, b は定数)のグラフをかくことができる。	□2つの数量の関係を式で表現できる。	□ $y=f(x)$ や $f(a)$ の表記を理解しており、用いることができる。	□1次関数のグラフがかけ、値域、関数の最大値・最小値が求められる。	□座標平面上の点と象限について理解を深めようとする。	
	2次関数のグラフ	□2次関数 $y=ax^2$ の形や軸、頂点について理解している。	□ $y=ax^2+q$ 、 $y=(x-p)^2$ 、 $y=(x-p)^2+q$ などの表記について、グラフの平行移動とともに理解している。	□平方完成を利用して2次関数 $y=ax^2+bx+c$ のグラフの軸と頂点を調べ、グラフをかくことができる。	□グラフの平行移動が、 x 軸方向、 y 軸方向の用語を用いて表現できる。	□グラフの平行移動や対象移動の一般公式を積極的に利用しようとする。	
	2次関数の最大・最小	□2次関数が最大値または最小値をもつことを理解している。	□ $y=ax^2+bx+c$ を $y=a(x-p)^2+q$ の形にして、最大値・最小値を求めることができる。	□2次関数の定義域に制限がある場合に、最大値・最小値が求められる。	□2次関数の定義域に制限があり、関数の式に文字定数が含まれている場合の、最大値・最小値が求められる。	□最大・最小の応用問題に2次関数を利用できる。	
	2次関数の決定	□放物線の頂点や軸の条件が与えられているとき、基本形 $y=a(x-p)^2+q$ を用いて関数を決定することができる。	□連立3元1次方程式の解き方を理解し、異なる3点を通る放物線を一般形 $y=ax^2+bx+c$ を用いて関数を決定することができる。	□放物線と x 軸との2交点が与えられているとき、分解形 $y=a(x-\alpha)(x-\beta)$ を用いて関数を決定することができる。	□平方完成や平行移動など、既習の内容と複合させた問題を解くことができる(1)。	□平方完成や平行移動など、既習の内容と複合させた問題を解くことができる(2)。	
	2次方程式	□2次方程式の解き方として、因数分解利用、解の公式利用を理解している。	□2次方程式がどんな場合でも解ける。	□2次方程式の解の考察において、判別式 $D=b^2-4ac$ の符号と実数解の関係を理解し、利用することができる。	□2次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。	□2つの2次方程式の共通解を求めることができる。	
	2次関数のグラフと x 軸の位置関係	□2次関数のグラフと x 軸の共有点の座標が求められる。	□2次関数のグラフと x 軸の共有点の個数を求めることができる。	□2次関数のグラフと x 軸の共有点の個数や位置関係を $D=b^2-4ac$ の符号から考察することができる。	□放物線と直線が接するとき、連立方程式は重解をもつことを理解し、接線の方程式を求めらるることができる。	□2次式が常に正(常に負)となる必要十分条件をグラフから理解し、求めることができる。	
	2次不等式	□1次関数のグラフと1次不等式の関係から、2次不等式の場合を考えようとする。	□2次不等式を解くことができる。	□2次の連立不等式を解くことができる。	□2次不等式を利用する応用問題(文章題)を解くことができる。	□2次関数のグラフが x 軸の正の部分と異なる2点で交わるための必要十分条件を求めることができる。	

小テスト
課題(ノート)提出
課題発表
グループ学習 など

中間考査(80分)

小テスト
課題(ノート)提出
課題発表
グループ学習 など

期末考査(80分)

【数学A】						
三角形の辺の比	☐ 内分・外分の意味を理解できる。	☐ 内分点・外分点を図示できる。	☐ 角の二等分線の定理を理解できる。	☐ 角の二等分線の定理を利用して線分の長さを求めることができる。		
三角形の外心、内心、重心	☐ 外心・内心・重心の定義を理解できる。	☐ 外心・重心・内心を図示できる。	☐ 外心・内心・重心の性質を利用して角の大きさや辺の長さを求めることができる。	☐ 内心・外心・重心の性質を利用して、図形の性質を証明することができる。		
チェバの定理・メネラウスの定理	☐ チェバの定理を用いて、線分の長さの比を求めることができる。	☐ メネラウスの定理を用いて、線分の長さの比を求めることができる。	☐ チェバの定理・メネラウスの定理を理解し、使い分けることができる。	☐ チェバの定理・メネラウスの定理を用いて、図形の面積比等を求めることができる。		
円に内接する四角形	☐ 円に内接する四角形の性質を理解できる。	☐ 円周角の定理や円に内接する四角形の性質を用いて、単純な図形の角の大きさを求めることができる。	☐ 円周角の定理や円に内接する四角形の性質を用いて、複雑に入り組んだ図形の角の大きさを求めることができる。	☐ 円に内接する四角形の性質を用いて、図形の性質を証明することができる。		
円と直線	☐ 接線の長さの定理や接線と弦の作る角の定理や方べきの定理を理解できる。	☐ 接線の長さの定理や接線と弦の作る角の定理や方べきの定理を用いて、単純な図形の角の大きさや線分の長さを求めることができる。	☐ 接線の長さの定理や接線と弦の作る角の定理や方べきの定理を用いて、複雑に入り組んだ図形の角の大きさや線分の長さを求めることができる。	☐ 接線の長さの定理や接線と弦の作る角の定理や方べきの定理を用いて、図形の性質を証明することができる。		
作図	☐ 作図の意味を理解できる。	☐ 定規とコンパスを用いて平行な直線や垂直な直線を図示できる。	☐ 図形の性質を用いて様々な長さの線分を図示できる。	☐ 様々な多角形を図示できる。		
空間図形	☐ 空間における直線や平面の位置関係を理解できる。	☐ 正多面体とは何かを理解し、面や辺や頂点の数を数えることができる。	☐ 空間における直線や平面の位置関係が正しいかどうかを判断できる。	☐ 正多面体をもとにして、様々な多面体の面や辺や頂点の位置を数えたり、体積を求めたりできる。		
【数学Ⅰ】						
集合	☐ 集合の用語が理解できる。	☐ 集合を{}を用いて表すことができる。	☐ 記号を用いて集合を表すことができる。	☐ 3つの集合に対して、共通部分や和集合などの要素をもめることができる。		
命題と条件	☐ 命題や真、偽、条件などの用語を理解できる。	☐ 命題を集合を用いて捉えることができる。	☐ 命題の真、偽の判定ができる。	☐ 必要条件と十分条件の判定ができる。		
命題と証明	☐ 逆・対偶・裏の用語を理解できる。	☐ 命題から逆・対偶・裏を述べることができる。	☐ 対偶を用いて証明できる。	☐ 背理法を用いて証明できる。		
【数学A】						
集合の要素の個数	☐ 和集合や補集合について理解し、その要素の個数を求めることができる。	☐ ベン図を利用して集合を図示することで、要素の個数を考察することができる。	☐ 和集合、補集合の要素の個数の公式を利用して和集合や補集合の要素の個数を求めることができる。	☐ 和集合、補集合の要素の個数の公式を利用して倍数に関する問題が解ける。	☐ 方程式が必要な問題や応用問題が解ける。	
場合の数	☐ 樹形図、和の法則、積の法則を理解している。	☐ 樹形図、和の法則、積の法則の利用場面を判断できる。	☐ 樹形図、和の法則、積の法則を用いる基本問題が解ける。	☐ 約数の個数を求めることができる。	☐ 樹形図を用いる応用問題が解ける。	
順列	☐ 順列の総数、階乗を記号で表し、それを活用できる。	☐ 順列、円順列、重複順列の公式を理解できる。	☐ 場合の数を、順列、円順列、重複順列に帰着させて求めることができる。	☐ 条件が付く順列、円順列、見方を変えたり別なものに対応させて処理することができる。	☐ 場合分けが必要な問題や応用問題が解ける。	
組み合わせ	☐ 順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。	☐ 組合せの総数を記号で表し、それを活用できる。	☐ 条件が付く組合せを、処理することができる。組み合わせや同じものを含む順列の総数を求めることができる。	☐ 組分けの総数や同じものを含む順列の意味が理解でき、それを求めることができる。	☐ 補集合や一般的な和の法則が必要な問題、応用問題が解ける。	
事象と確率	☐ 試行の結果を集合と結びつけて、事柄の起こりやすさを数量的にとらえることができる。	☐ 確率の定義が理解でき、数え上げで処理できる問題が解ける。	☐ 順列、組み合わせを用いて確率の基本問題が解ける。	☐ 条件が付く確率を、見方を変えたり別なものに対応させたりして求めることができる。	☐ 確率から個数を求める問題や道順の確率等の応用問題が解ける。	
確率の基本性質	☐ 積事象、和事象の定義を理解している。	☐ 集合の性質を用いて、確率の性質を一般的に考察することができる。	☐ 排反事象、余事象の確率を用いる基本問題が解ける。	☐ 一般の和事象の確率の公式が理解でき、正しく用いることができる。	☐ 確率の計算に集合を活用し、複雑な事象の確率も求めることができる。	
独立な試行と確率	☐ 独立な試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。	☐ 独立な試行の確率を、公式を用いて求めることができる。	☐ 独立試行の確率を、余事象の確率や加法定理などを用いて求めることができる。	☐ 反復試行の確率を、公式を用いて求めることができる。	☐ 酔歩、樹形図が必要な問題等の応用問題が解ける。	
条件付き確率	☐ 条件付き確率の定義が理解できる。	☐ 条件付き確率の基本計算ができる。	☐ 確率の乗法定理を用いて2つの事象がともに起こる確率を求めることができる。	☐ 場合分けが必要な条件付き確率を求めることができる。	☐ 原因の確率等の応用問題が解ける。	

小テスト
課題(ノート)提出
課題発表
作品課題
グループ学習 など

数学Ⅰ・A合わせて
中間考査(80分)

【数学Ⅰ】					
三角比	☐ 正弦、余弦、正接が何かわかる。 ☐ 三角比の表から様々な角度の三角比を求めることができる。	☐ 30° 45° 60° の直角三角形の辺の比がわかるとともにその三角比を求めることができる。	☐ 三平方の定理を利用して三角比を求めることができる。 ☐ 三角比と三角比の表を利用して角の大きさや辺の長さを求めることができる。	☐ 問題文を読んで求めるものを図示し、その図の中から直角三角形を探し出し、三角比を利用して必要なものを求めることができる。	
三角比の相互関係	☐ 三角比の相互関係の式を知っている。	☐ 三角比の相互関係の式を利用して、1つ三角比を与えられたときに残りの2つの三角比を求めることができる。(鋭角の場合)	☐ 三角比の相互関係の式が三平方の定理等から成り立つことを知っている。	☐ 三角比の相互関係の式や三平方の定理を利用して、1つ三角比を与えられたときに残りの2つの三角比を求めることができる。(鋭角の場合)	
三角比の拡張	☐ 鈍角の有名角の三角比について、座標を用いた三角比の定義で理解することができる。	☐ $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ の三角比について、そのとりうる値の範囲について理解している。 ☐ $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ の有名角の三角比を表でまとめることができる。	☐ $180^\circ - \theta$ 、 $90^\circ - \theta$ の三角比の関係式を理解し、鈍角の三角比を三角比の表から読みとることができる。 ☐ 比の値や角の条件に気を付けて、1つ三角比を与えられたときに残りの2つの三角比を求めることができる。	☐ 三角比を含む基本的な等式・不等式を解くことができる。 ☐ 直線の傾きと正接の関係を理解し、 x 軸とのなす角を求めることができる。	
正弦定理	☐ 正弦定理の公式を理解している。	☐ どのようなときに正弦定理を利用すればよいか一般的な条件を理解している。	☐ 正弦定理を利用すべきところで利用し、式をたてて計算することができる。	☐ 一般的な条件以外でも正弦定理を利用すべきところで利用し、式をたてて計算することができる。	
余弦定理	☐ 余弦定理の公式を理解している。	☐ どのようなときに余弦定理を利用すればよいか一般的な条件を理解している。	☐ 余弦定理を利用すべきところで利用し、式をたてて計算することができる。 ☐ 三角形の3辺より鋭角、直角、鈍角の判定をすることができる。	☐ 一般的な条件以外でも余弦定理を利用すべきところで利用し、式をたてて計算することができる。 ☐ 三角形の中線の長さを求めることができる。	
正弦定理と余弦定理の応用	☐ 問題文から与えられた情報をすべて図示し、求めるものが何かを把握できる。	☐ 求めたいものはどのような定理を利用すれば求めることができるかを考え、実際式をたてて求めることができる。	☐ 三角形の辺と角の決定の様々なパターンを解くことができる。	☐ 三角形の3辺の比と正弦の比の関係について理解しているとともに、三角形の性質から最大角の余弦の値を求めることができる。	
三角形の面積	☐ 三角形の面積の公式を理解している。	☐ どのようなときに三角形の面積の公式を利用すればよいか一般的な条件を理解し、実際に求めることができる。	☐ 3辺がわかっているときの三角形の面積の求め方を理解し、順をおって求めることができる。	☐ 円に内接する四角形の面積や三角形の内接円の半径を求めることができる。	
円に内接する四角形など			☐ 三角形の内接円の半径や円に内接する四角形に関する問題を解くことができる。		
空間図形への応用	☐ 問題文から空間図形を描くことができる。	☐ 着目する平面、定理を考え、式をたてて求めることができる。	☐ 様々な立体の断面面積や長さを求めることができる。	☐ (正)四面体の体積や立体の断面までおろした垂線の長さを求めることができる。	
データの整理	☐ 度数分布表やヒストグラムの意味を理解することができる。	☐ データから度数分布表やヒストグラムを作ることができる。	☐ 度数分布表やヒストグラムを読み取り、データを分析し考察することができる。	☐ 度数分布表やヒストグラムから代表値などを求めることができる。	

小テスト
課題(ノート)提出
課題発表
グループ学習 など

	データの代表値	□データの代表値の意味を理解することができる。	□データの代表値を求めることができる。	□度数分布表やヒストグラムから代表値を求めることができる。	□代表値の応用問題を解くことができる。	
	データの散らばりと四分位数	□四分位数や四分位範囲などの意味が理解できる。	□四分位数や四分位範囲などを求めることができる。	□箱ひげ図を理解し、四分位数から箱ひげ図を描くことができる。	□箱ひげ図を比較してデータの散らばりなどを分析し考察することができる。	
	分散と標準偏差	□分散と標準偏差の意味が理解できる。	□データの分散と標準偏差を定義から求めることができる。	□データの分散と標準偏差を公式から求めることができる。 □複数のデータを比較して分析し考察することができる。	□仮平均を理解して、データの平均値や標準偏差を求めることができる。	
	データの相関	□データの相関関係を理解することができる。	□データの相関関係と散布図の関係を理解することができる。	□相関係数を理解し、計算で求めることができる。	□相関係数の値から2つのデータの関係を分析し考察することができる。	期末考査(80分)
数学A	約数と倍数	□約数・倍数の意味を理解できる。	□約数・倍数を求めることができ、素因数分解することができる。	□倍数の判定法を利用して、倍数を判定することができる。	□素因数分解を利用して、正の約数の個数などを求めることができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
	最大公約数・最小公倍数	□最大公約数と最小公倍数の意味を理解できる。	□素因数分解を利用して最大公約数と最小公倍数を求めることできる。	□互いに素であることを利用して、倍数の証明をすることができる。	□最大公約数・最小公倍数の性質を利用して、問題を解くことができる。	
	整数の割り算と商・余り	□整数の割り算の表し方を理解できる。	□整数の範囲における割り算を解くことができる。	□整数の割り算の表し方を活用して、問題を解くことができる。	□余りによる整数の分類を利用して証明問題を解くことができる。	
	ユークリッドの互除法	□ユークリッドの互除法の計算方法を理解できる。	□ユークリッドの互除法を利用して、最大公約数を求めることができる。	□ユークリッドの互除法を活用して、1次不定方程式の一つの解を求めることができる。	□合同式を理解して、余りを求める問題を解くことができる。	
	一次不定方程式	□1次不定方程式の整数解がkを用いて表されることを理解できる。	□ユークリッドの互除法を必要としない1次不定方程式のすべての整数解を求める問題を解くことができる。	□ユークリッドの互除法を活用して、1次不定方程式のすべての解を求める問題を解くことができる。	□1次不定方程式の応用問題を解くことができる。	
	分数と小数	□有限小数、無限小数を理解し、循環小数を書き表すことができる。	□割り算を利用して、分数を循環小数で表すことができる。	□分母の素因数から有限小数を判断することができる。	□循環小数の小数第n位の数を求めることができる。	
	n進法	□n進法の表し方が理解できる。	□10進法の数をn進法で、n進法の数を10進法で表すことができる。	□n進法の小数を理解して表すことができる。	□n進法の四則演算を計算することができる。	中間考査(50分)

3	【数学Ⅱ】						
	3次式の展開・因数分解	☐ 3乗の展開公式を理解し、展開することができる。	☐ 3乗の因数分解の公式を理解し求めることができる。	☐ 6次式の因数分解ができる。			
	パスカルの三角形	☐ パスカルの三角形について理解している。	☐ パスカルの三角形を利用して4乗の展開ができる。	☐ パスカルの三角形を利用して $(a+b)^n$ の展開ができる。 ※ n が5以上			
	二項定理	☐ 二項の式の n 乗の展開をしたときの係数を C を用いて計算することができる。	☐ 二項定理を利用して、 $(a+b)^n$ の展開ができる。	☐ 一般項を考えて、指定された項の係数を求めることができる。	☐ 多項定理を活用できる。		
	整式の割り算	☐ 降べきの順になった整式の割り算の筆算をして商と余りを求めることができる。	☐ やや複雑な整式の割り算の筆算をして商と余りを求めることができる。	☐ ある文字に着目して整式の割り算の筆算ができる。			
	等式の利用	☐ 関係式 $A=BQ+R$ の意味がわかる。	☐ 問題文を読んで、 $A=BQ+R$ の式にすることができる。	☐ 商や余りが先にわかっているときの割った整式や割られた整式を求めることができる。			
	分数式とその計算	☐ 既約分数式と分数式の意味がわかる。 ☐ 分数式の約分ができる。	☐ 分数式の四則計算ができる。(通分が必要でないもの)	☐ 分数式の四則計算ができる。(通分が必要なもの)	☐ 複雑な分数式の四則演算ができる。		
	恒等式	☐ 恒等式と方程式の違いが見分けることができる。	☐ 恒等式の性質を利用して、様々な文字係数を求めることができる。	☐ 恒等式の性質を利用して、様々な文字係数を求めることができる。(恒等式が分数式を含むもの)			
							小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
							学年末考査(50分)

到達レベル	1	2	3
【ノート提出】 意欲・関心	問題集を用いて、テスト範囲の問題ができていない。	問題集を用いて、一通りテスト範囲の問題演習ができています。	問題集を用いて、一通りテスト範囲の演習を済ませたうえで、反復練習をしたり、理解するための工夫をしている。
【冬の課題研究】 意欲・関心	課題を提出していない。	測量をし、課題を提出した。	測量をし、三角比を用いた正しい計算式によって建物などの高さを算出した。
【グループワーク】 知識・理解	学習内容を説明することができない。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を説明することができる。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を論理的に簡潔に説明することができる。
【グループワーク】 協働的態度	共同作業の中で、自分の意見を出したり、話し合った内容をまとめたりできない。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、話し合った内容をまとめたりできる。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、他の人の意見をまとめたりして、グループで思考の仮定を共有することができる。

令和3年度 北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
理科	化学基礎	2	1年全コース	平田・福井
教科書	啓林館 化学基礎 改訂版	副教材	インプレス化学基礎ノート(浜島書店)	

1. 学習の目標

日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

復習に力を注ぎましょう。まずは、授業のノート(プリント)を見直し、理解することに努めましょう。その上で、覚えておかなければならない基礎的な事項は必ず覚えてください。さらに、教科書および問題集の練習問題を解きながら、基礎的な学力を身につけましょう。考査問題には、問題集からも出題します。また将来、大学受験を考えている人は、応用問題にもチャレンジしましょう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・授業への出席状況、受講態度 授業に集中し、意欲的に取り組んでいるか。 自分で工夫してノート等への記入を行っているか。 ・ノート、課題、レポート等の提出状況 授業内容および課せられた課題を適切にまとめているか。 提出期限を守って、提出されているか。
②思考・判断 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・定期考査、小テスト 答えを導き出す過程が記されているか。 ・レポート内容 結果のみでなく、考察がされているか。
③技能・表現 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・観察・実験の技能・表現、発表等 実験器具等を正しく操作しているか。 予想や考察内容が具体的に表現されているか。
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	・定期考査、小テスト、レポート内容等 学習した内容が正確に理解されているか。

4. 担当者からのメッセージ

- 1 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度をもつこと。
- 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。
- 3 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動	自己評価
1	序章 化学と人間生活 第1部 物質の構成 第1章 物質の構成 第1節 純物質と混合物 第2節 物質とその成分 第3節 粒子の熱運動と物質の三態	・化学という科目の特徴を理解する。 ・物質は純物質と混合物とに分類できることを理解する。 ・混合物から純物質を得る分離・精製には種々の方法があり、実験を通してその操作法を体得する。 ・物質を構成する元素の種類によって、単体や化合物が存在し、同じ元素からなる単体には性質が異なる同素体をもつものがあることも理解する。成分元素の検出方法も学ぶ。 ・物質には固体・液体・気体の3つの状態があることを確認し、相互の変化には熱の出入りによる分子の熱運動がもとになっていることを理解する。 ・熱運動が停止する温度を0とする、絶対温度の定義も学ぶ。	プリント提出 実験:赤ワインの蒸留・レポート作成 小テスト	【 】 【 】 【 】 【 】
	第2章 物質の構成粒子 第1節 原子の構造と電子配置 第2節 イオン 第3節 元素の周期表	・原子の構造を理解し、その構成粒子の違いにより同位体が存在することを理解する。 ・原子の電子配置とそれに基づく価電子の意味を理解する。また、化学結合の基礎となる希ガスの電子配置を理解する。 ・イオンは希ガスと同じ電子配置をとって安定化していることを理解するとともに、多原子イオンの種類や化学式の表しかたを学ぶ。 ・原子のイオン化エネルギーと電子親和力を理解する。 ・元素の性質から考え出された周期律と、それを一覧にした周期表の特徴を理解する。とくに、価電子の数やイオン化エネルギーの周期的変化に注目する。 ・周期表上での元素の分類や同族元素の名称、周期表上における元素の陽性や陰性の傾向について学ぶ。	プリント提出 小テスト ノート・問題集提出 期末考査 環境調査(水質及び大気) レポート作成	【 】 【 】 【 】 【 】 【 】
2	第3章 化学結合 第1節 イオン結合 第2節 共有結合	・原子や原子団がどのようにして電気を帯びるか、さらにその粒子がどのような力によって結合するかを学ぶ。 ・イオンからなる物質の種類や表し方・特徴的な性質を理解する。 ・原子が価電子を共有するという方法で結びつくしくみを理解する。 ・物質を表す方法として、分子式をはじめ電子式や構造式を学ぶ。	小テスト プリント提出	【 】 【 】 【 】

		・電子を引きつける強さの尺度ともいえる電気陰性度を理解し、共有結合では、電気陰性度の違いにより電子のかたよりを生じ、電氣的に正の部分と負の部分ができることを学ぶ。 ・分子の形によって極性が打ち消される分子と打ち消されない分子とが存在することを学ぶ。共有結合の特別な場合である配位結合について学ぶ。 ・無数の原子が共有結合により結合した物質である共有結合結晶について、性質が大きく異なることを学ぶ。	小テスト	【 】
	第3節 金属結合	・金属の原子どうしでは、イオン結合や共有結合とは異なったしくみで結合することを理解する。	ノート・問題集提出中間考査	【 】
	第4節 物質の分類と融点	・化学結合と物質の性質の関係を理解する。	演示実験:液体窒素 レポート作成	【 】
	第2部 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 第1節 原子量・分子量・式量	・原子量という概念によって異なる元素の原子の質量が比較しやすくなることを理解する。それをもとに、分子量や式量の定義を学ぶ		【 】
	第2節 物質量(mol)	・微小な粒子を扱うには、ある一定の量を考えて、それを単位として扱うほうが便利であることを理解し、物質量の概念を学ぶ。 ・物質量は化学全体にわたって必須の概念なので、演習などを通して数値的な扱い方を体得する。また、気体については物質量と体積も重要な関係があるのであわせて理解する。 ・溶液の濃度について、パーセント濃度やモル濃度の定義を学び、扱いに慣れる。	小テスト プリント提出 ノート・問題集提出期末考査	【 】 【 】 【 】
3	第3節 化学反応式と化学変化	・化学変化を化学反応式やイオン反応式で表すことを学び、それをもとにして化学反応式が表す量的関係が把握できるようになる。	小テスト	【 】
	第2章 酸と塩基 第1節 酸と塩基	・酸や塩基の定義について、アレキニウスとブレンステッドの2つの方法を学び、酸・塩基の反応には水素イオンが寄与していることを理解する。 ・酸や塩基の価数、電離度による強弱の分類法を理解する。	プリント提出	【 】 【 】
	第2節 水の電離とpH	・水は一部が電離していること、水溶液の酸性や塩基性の強さをpHにより表すことができることを理解する。		【 】
	第3節 酸・塩基の中和と塩	・酸と塩基が中和するときのしくみや量的関係を理解する。	ノート・問題集提出学年末考査	【 】

令和3年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
理科	生物基礎	2	1年全コース	濱名・坂田・波多野
教科書	生物基礎 改訂版(数研出版)	副教材	四訂版 リードLightノート 生物基礎(数研出版)	

1. 学習の目標

生物や生命現象について関心を高め、理解を深めて、自分自身と自分自身がおかれている環境について主体的に考える態度を養うとともに、生物学上の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な生命観を身に付けることができるようになる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

まずは「何故だろう」という疑問から始まります。そして自分なりにその答えを予想して調べ、正解に近づいていきましょう。毎回の授業を大切に、授業内で疑問に思ったことがあれば、自分で調べたり、教科担当や友人に聞いたりして解決につなげましょう。基礎力は、考査直前だけではなく、毎回の授業後に問題演習に取り組むことで身に付きます。また予習、復習として教科書を音読することも効果的です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、受講態度、ノート・課題・レポート等の提出状況
②思考・判断 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考査、レポート内容(考察)等
③技能・表現 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	観察・実験の技能・表現
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	定期考査、レポート内容等

4. 担当者からのメッセージ

「生物」は決して暗記科目ではありません。細胞と細胞のつながり、体内と体外、同じ種類の生きもの、違う種類の生きもの、地球規模の環境など、大小さまざまな関係によってつくられている大きな世界の物語を理解する学問です。その一つ一つを一緒に学んでいきましょう。

年間学習計画

学期	学習項目・内容の要点	到達目標	学習活動	自己評価
1	序章 生物基礎を学ぶにあたって探究活動の進め方	□これから生物基礎で学習する内容の概要を把握し、探究活動とは何かについて理解している。 □生物の学習において重要な顕微鏡の使い方を習得している。	顕微鏡観察の基本操作(③) マイクロメーターによる測定(③)	【 】 【 】
	第1章 生物の特徴			
	1. 生物の多様性と共通性 生物の多様性・共通性とその由来、生物に共通する細胞構造	□生物の多様性と共通性とは何かを理解している。 □多様な生物にも細胞構造をもつなど共通性があり、その共通性は共通の起源をもつことに由来することを理解している。	中間考査(④)	【 】 【 】
	2. エネルギーと代謝 生命活動とエネルギー、代謝と酵素	□代謝に必要な酵素のはたらきを理解している。 □光合成・呼吸の意味を理解している。	実験・観察「酵素」(③) レポート提出(①)	【 】 【 】
	3. 光合成と呼吸 光合成、呼吸、光合成と呼吸によるエネルギーの流れ、ミトコンドリアと葉緑体の由来	□生物が代謝によって生きるためのエネルギーを利用可能な形に転換していることを理解している。	実験・観察「光合成色素」(③) レポート提出(①)	【 】 【 】
2	第2章 遺伝子とそのはたらき			
	1. 遺伝情報とDNA 遺伝情報を担う物質-DNA, DNAの構造	□遺伝情報を担う物質であるDNAについて、構造および遺伝情報は塩基配列にあることを理解している。	ノート提出(①) 期末考査(④)	【 】 【 】
	2. 遺伝情報の発現 遺伝情報とタンパク質、タンパク質の合成	□転写と翻訳のしくみが理解できている。 □生命現象におけるタンパク質の重要性が理解できている		【 】 【 】
2	3. 遺伝情報の分配 細胞分裂と遺伝情報の分配、分化した細胞の遺伝情報、DNAの遺伝情報と遺伝子、ゲノム	□遺伝情報は正確に複製されて子孫に受け継がれるしくみが理解できている。 □それぞれの細胞ではすべての遺伝子が発現しているわけではないことについて理解できている。	実験・観察(③) レポート提出(①)	【 】 【 】

年間学習計画

学期	学習項目・内容の要点	到達目標	学習活動	自己評価
2	第3章 生物の体内環境 1. 体内環境としての体液 体内環境と恒常性, 体液とその循環, 血液の凝固と線溶 2. 腎臓と肝臓による調節 腎臓と肝臓の役割, 腎臓の構造とはたらき, 肝臓の構造とはたらき	☐ 動物の体内の細胞にとって、体液は一種の環境(体内環境)であることが理解できている。 ☐ 体内環境がほぼ一定に保たれている意味がわかる。 ☐ 体内における調節の実例とそのしくみが理解できている。	ノート提出(①) 中間考査(④)	【 】 【 】 【 】
	3. 神経とホルモンによる調節 自律神経系と内分泌系, 神経による調節-自律神経系, ホルモンによる調節-内分泌系, 自律神経系と内分泌系による調節	☐ 循環系, 腎臓と肝臓, 自律神経系と内分泌系についてそれぞれの役割を理解している。	期末考査(④)	【 】
3	第5章 生態系とその保全 1. 生態系とその成り立ち 生態系の成り立ち, 生物どうしのつながり, さまざまな生態系	☐ 「生態系」を構成する要素とは何かを理解している。 ☐ 生態系における物質循環とエネルギーの流れについて理解している。	実験・観察(③) レポート提出(①)	【 】 【 】
	2. 物質循環とエネルギーの流れ 炭素の循環とエネルギーの流れ, 窒素の循環 3. 生態系のバランスと保全 生態系のバランス, 人間活動と生態系, 生態系の保全	☐ 生態系のバランスはどのように保たれているかを理解している。 ☐ 人間の活動が生態系のバランスにどのような影響を与えているかを理解している。 ☐ 自然環境の保全について身近な例から地球レベルの環境問題にいたるまで理解しているか。	学年末考査(④)	【 】

理科ルーブリック

ノート・プリント提出

	A	B	C	D
関心・意欲・態度	期限内に提出。全ての内容が的確に記録されている。あわせてそれ以外の授業メモも取れている。	期限内に提出。全ての内容が記録されている。	期限内には提出。所々空白部分が見られる。	期限内に提出できず。内容が不十分である。

実験・観察

	A	B	C	D
技能	実験操作を、適切に行うだけでなく、実験器具等の使用目的を理解し正確に操作できる。	おおむね実験操作を適切に行うことができる。	おおむね適切に行うことができるが、一部誤った手順が見られる。	適切な実験操作を行う事ができない。

実験・観察

	A	B	C	D
思考・判断・表現	実験データを基に考察し、自分の考えをまとめ、言葉や図、グラフ等での的確に表現できる。	おおむね実験データから自分の考えをまとめられる。	実験データを整理することができるが、自分の考えを表現できない。	実験データを整理することができない。

実験・観察

	A	B	C	D
関心・意欲・態度	実験の内容をよく理解し、結果を予測しながらデータを整理し、理論値との差違とその理由を考えることができる。	実験データと理論値の差違を指摘することができる。	考察がデータのみの記載にとどまり、その結果の判断が不足している。	データの記載も不完全であるか、明らかに他の生徒のものを転記している。

プレゼンテーション

	A	B	C	D
関心・意欲・態度	発表の内容をよく理解し、わかりやすくデータを整理し、聞く側の反応を予測しながらテーマを伝えたいという熱意が感じられる。	準備した内容を要領よく発表することができる。	発表の内容は適当であるが、データのまとめ方や発表の技術が不十分で、内容が相手に十分に伝わりにくい。	発表の内容自体が稚拙で、伝えようとする意欲も感じられない。

グループ学習

	A	B	C	D
関心・意欲・態度	学習テーマをよく理解し、積極的にグループ内の役割分担を遂行している。簡潔に学習内容を発表することができる。	学習内容を理解し、結論を導き出すために協調して作業することができる。	学習内容は理解しているが、積極的に作業に参加する意欲に欠けている。	学習内容は理解せず、グループの作業に積極的に参加しない。

令和3年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
保健体育	体育	3	1年全コース	保健体育科全員
教科書		副教材		

1. 学習の目標

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- ・集散の行動を素早く行い、規律ある態度で授業に取り組む。
- ・授業の開始と終了時に挨拶をし、返事は大きな声ではっきりと行う。
- ・正しい言葉遣いを用いて、節度ある態度で授業に臨む。
- ・授業に出席し、種目に積極的に参加したり仲間と協力しながら技能の向上を目指す。
- ・日常的に運動に親しみ、安全に授業参加できるよう準備する。
- ・各種目を通して、健康、運動、体力について相互理解し、心身の発育・発達に関連づけてまとめる。(レポート等)

3. 評価

次の各観点に基づき、学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに、基準に沿って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への積極的参加(集散・挨拶等) 他者との協力 授業準備・片付け
②思考・判断 各教科科目の知識・技能を活用し、課題を解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	種目によるレポート作成 (種目・競技と健康・体力、心身の発育・発達との関係について等)
③技能・表現 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	種目による技能テスト(記録、フォーム等)
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	種目におけるレポート作成(競技の特性・特徴・ポイント・ルール等)

4. 担当者からのメッセージ

オリエンテーションの内容を正しく理解し、各授業時間を大切にしながら意欲的に取り組んで下さい。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	体づくり運動	○健康・安全に留意し、他者を尊重しながら主体的に運動に取り組むことができる。 ○自己や仲間の課題に応じた運動を継続することができる。 ○心と体は互いに影響し変化することに気づくことができる。 ○体の状態に応じて体の調子を整え、仲間と積極的に交流するための手軽な運動や律動的な運動を行うことができる。 ○体づくり運動の行い方や体力の構成要素を理解し、実生活に取り入れながら実践することができる。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
	陸上競技 (短距離走)	○健康・安全に対する高い意識で学習に取り組んでいる。 ○陸上競技に強い関心を持ち、記録の向上を目指して積極的に学習できる。 ○個のレベルに応じた課題を設定し、その改善のための練習方法を実践できる。 ○より速く走るために、自らの能力に応じた技能を習得している。 ○種目の特性や技術の構造をふまえ、課題解決のための練習方法や学習の進め方を理解している。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
	球技 (ハンドボール) (サッカー) (バレーボール)	○球技の特性に深い関心を持ち、その楽しさや技能向上にともなってチームプレーに貢献する喜びを深く味わうことができるよう、練習に取り組んでいる。 ○ルールやマナーを守り、フェアプレーの精神で試合ができる。 ○練習やゲームから、自己やチームの課題を見出すことができる。 ○チームや個人の能力に見合った目標を設定し、練習計画が立案できる。 ○基本的な技術や戦術を、ゲームの状況に応じて適切に選択し十分生かすことができる。 ○球技の特性や学習の進め方、個人的技術や集団的技術の構造について理解し、チームメイト等に説明することができる。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
2	体づくり運動	○健康・安全に留意し、他者を尊重しながら主体的に運動に取り組むことができる。 ○自己や仲間の課題に応じた運動を継続することができる。 ○心と体は互いに影響し変化することに気づくことができる。 ○体の状態に応じて体の調子を整え、仲間と積極的に交流するための手軽な運動や律動的な運動を行うことができる。 ○体づくり運動の行い方や体力の構成要素を理解し、実生活に取り入れながら実践することができる。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
	格技Ⅱ (剣道)	○礼儀作法を大切にして、安全に留意しながら相手を尊重した練習ができる。 ○相手と互いに協力し、楽しんで練習に取り組むことができる。 ○相手だけでなく、用具等も尊重する心を持ち、正々堂々とした態度で稽古に取り組むことができる。 ○常に向上心を持ち、創意工夫ができる。 ○自己の能力や体格・体型に適した技術や戦術を模索している。 ○理合を理解し、冷静な判断と決断力で技が出せる。 ○柔道の技能習得において課題を見つけ、その解決に向けて積極的に練習に取り組んでいる。 ○柔道の技能の特性を理解し、自他の能力や体格を十分把握して安全に行うための技術が身についている。 ○気剣体一致の踏み込み足打突ができ、勢いのある体、足捌き、冴えのある打突ができる。 ○防具の正しい着装が、素早くできる。 ○禁止事項や勝敗の判断などに関する規定を理解し、審判ができる。 ○日本の運動文化としての特性を尊重し、礼法、正しい着装、技の理合などが理解できる。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)

ダンスⅡ (現代的な音楽を使っの創作)	○踊ることに興味を持ち、自らすすんで学習することができる。 ○グループ活動への積極的な参加、協力ができる。 ○基本的な動きをもとに工夫した動きを考えだし、修正しながらまとめることができる。 ○ダイナミックに、リズムカルに踊ることができる。 ○基本的な動き(運動の要素)を理解できる。 ○現代的なリズムの音楽にのったダンス(ジャズダンス・ヒップホップなど)の特性を理解している。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
陸上競技 (跳躍選択)	○健康・安全に対する高い意識で学習に取り組んでいる。 ○陸上競技に強い関心を持ち、記録の向上を目指して積極的に学習できる。 ○個のレベルに応じた課題を設定し、その改善のための練習方法を実践できる。 ○より遠くへ(高く)跳ぶために、自らの能力に応じた技能を習得している。 ○種目の特性や技術の構造をふまえ、課題解決のための練習方法や学習の進め方を理解している。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
球技 (ハンドボール) (サッカー) (バレーボール)	○球技の特性に深い関心を持ち、その楽しさや技能向上にともなってチームプレーに貢献する喜びを深く味わうことができるよう、練習に取り組んでいる。 ○ルールやマナーを守り、フェアプレーの精神で試合ができる。 ○練習やゲームから、自己やチームの課題を見出すことができる。 ○チームや個人の能力に見合った目標を設定し、練習計画が立案できる。 ○基本的な技術や戦術を、ゲームの状況に応じて適切に選択し十分生かすことができる。 ○球技の特性や学習の進め方、個人的技術や集団的技術の構造について理解し、チームメイト等に説明することができる。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
3 陸上競技 (長距離走)	○記録を向上させる楽しみや喜びを体得している。 ○自らの能力に応じた目標や課題を設定できる。 ○設定された長距離をより速く走ることができる。 ○長距離走の特性や技術を理解している。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
球技 (バスケットボール)	○球技の特性に深い関心を持ち、その楽しさや技能向上にともなってチームプレーに貢献する喜びを深く味わうことができるよう、練習に取り組んでいる。 ○ルールやマナーを守り、フェアプレーの精神で試合ができる。 ○練習やゲームから、自己やチームの課題を見出すことができる。 ○チームや個人の能力に見合った目標を設定し、練習計画が立案できる。 ○基本的な技術や戦術を、ゲームの状況に応じて適切に選択し十分生かすことができる。 ○球技の特性や学習の進め方、個人的技術や集団的技術の構造について理解し、チームメイト等に説明することができる。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)

令和3年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
保健体育	保健	1	1年全コース	保健体育科全員
教科書	現代高等保健体育(大修館)	副教材		

1. 学習の目標

- (1)個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
 (2)健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
 (3)生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- ・各授業前(前日)までに授業範囲の教科書を読み、ポイントや疑問点について事前に調べておく。
- ・授業後、授業の内容についてノート等と教科書を比べたり、自分の考えをまとめたりする。
- ・調べ学習と発表は、発表分野の課題に関連する事象をより深く調べ、資料を準備する等してわかりやすく説明できるようにする。

3. 評価

次の各観点に基づき、学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに、基準に沿って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への積極的参加(集散・挨拶・発表・発言等) 課題提出・ノート(プリント等)提出 実習の取り組み
②思考・判断 各教科目の知識・技能を活用し、課題を解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	各学期ごとの定期テスト 課題発表
③技能・表現 各教科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	課題発表 実習による技能テスト
④知識・理解 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	各学期ごとの定期テスト 課題発表

4. 担当者からのメッセージ

オリエンテーションの内容を正しく理解し、各授業時間を大切にしながら意欲的に取り組んで下さい。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	現代社会と健康 ・交通事故の現状と要因 ・交通社会における運転者の資質と責任 ・安全な交通社会づくり ・応急手当の意義とその基本 ・心肺蘇生法 ・日常的な応急手当	○交通事故の現状や特徴、要因を知り、それらがもたらす社会的損失を自分のこととして考えることができる。 ○交通社会の一員として必要な資質や責任補償について学び、安全な運転や歩行、自他の生命を尊重する態度を身につける。 ○法的な整備や施設・設備の充実、また車の安全性を高める対策やその普及・選択の重要性を学び、交通事故のない社会づくりを目指す。 ○応急手当の意義を知り、正しい手順や方法を理解して、それらを積極的に実施できるようになる。 ○心肺蘇生法は特別な人だけが行うことではなく、誰もが正しい手順や方法を整理して理解し、実践できる社会の一員となることを目指す。 ○日常でおこるけがや熱中症等の知識や応急手当の方法を身につけ、生活に役立てることができるようになる。	実習(①②③④) 課題提出(①②④) 期末考査(②④)
2	現代社会と健康 ・私たちの健康のすがた ・健康のとらえ方 ・生活習慣病のその予防 ・食事と健康 ・運動と健康 ・休養、睡眠と健康 ・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 ・現代の感染症 ・感染症の予防 ・性感染症、エイズとその予防	○わが国の健康水準向上の背景を知り、健康問題の変化から新たな健康問題について考えることができるようになる。 ○健康の成り立ちと要因を理解し、健康についての多様な考え方から、生活の質を重視した健康観を育む。 ○生活習慣病を正しく理解し、その一次予防と二次予防が実践できる生活習慣を学習する。特に、適切な食事・運動・休養を自らの生活で実践できる方法を考えたり、健康に悪影響を及ぼす要因である喫煙、飲酒、薬物乱用の影響や医薬品の適切な使用方法、また性病やエイズを含む感染症の正しい理解と予防・対応等について整理して理解し、生活に役立てることができる。	発表(①②③④) 課題提出(①②④) 期末考査(②④)
3	現代社会と健康 ・欲求と適応規制 ・心身の相関とストレス ・ストレスへの対処 ・心の健康と自己実現 ・健康と意思決定・行動選択 ・健康に関する環境づくり	○生まれながらの欲求と成長とともに増える欲求、またその欲求を満たすための葛藤や行動がもたらす適応機制を客観的な視点で捉えることの必要性を理解する。 ○心と体には密接に関わり合っているため、刺激や緊張を与えること起こるでストレスのしくみと原因について学び、自分に合った適切な対処方法を模索し実践できるよう考えることができる。 ○自らの思考や行動を客観的に振り返ることで自己理解を深め、持てる能力を最大限に発揮するために必要な過程について考えることができる。 ○自らの習慣や行動は選択することで決められているということを理解し、健康に結びつく意志決定や行動選択ができるようになる。 ○健康を守るために必要な社会環境を整備するために、住民と地域や会社、自治体、国が一体となって個人を支援する仕組みを理解する。	課題提出(①②④) 期末考査(②④)

体育ルールブック 授業

	A	B	C	D
関心・意欲・態度	運動に意欲を持って取り組み、種目の楽しさや喜びを味わい、自分で課題を見つけ改善しようとするなど授業に主体的に取り組むことができる。	種目の楽しさや喜びを味わいながら授業に取り組むことができる。	声かけがあれば各種目の練習に取り組むことができる。	各種目の練習や試合に参加することができていない。
関心・意欲・態度	仲間と協力して授業に必要な道具の準備や片付けに積極的に取り組むことができる。	促されれば授業に必要な道具の準備や片付けに取り組むことができる。	促されれば必要道具の準備や片付けに組み組もうとするが、途中でやめてしまう。	授業に必要な道具の準備や片付けを行うことができない。
思考・判断	周囲の状況を見て、何をすべきか的確に判断し、自己の役割を責任を持って果たすことができる。	自己に与えられた役割を果たすことができる。	自ら役割を果たそうとはしないが、促されれば行動することができる。	役割を与えられても取り組みようとしていない。
技能・表現	各種目の特性を理解し、体力・技術が高まり記録や技能が向上している。また、与えられた課題を高いレベルで行うことができる。	与えられた課題を一定のレベルで行うことができる。	与えられた課題を一定のレベルで行うことができるが、不十分な点がある。	体力・技術が一定のレベルに到達しておらず課題を一定のレベルでできていない。
技能・表現	各種目の特性、必要な動作を理解し、正しいフォームが身についている。	正しいフォームが身についているが、少し不十分な点がある。	ある一定フォームを身につけることができるが、不十分な点が見られる。	正しいフォームを身につけることができていない。
知識・理解	各種目の発祥に関わる歴史や特性、特徴、ルールなどを理解している。	各種目のルール・必要な知識を理解している。	各種目のルールを理解しようとしているが、わかっている部分がある。	各種目のルールを理解できていない。

体育ルールブック レポート

思考・判断	各種目の特徴・特性・技術等をわかりやすく図にまとめ、レポートに記入することができる。	各種目について一部不十分な点があるが図をレポートに記入することができる。	図をレポートにかけているが不十分な点が多い。	レポートを提出することができない。
知識・理解	各種目の発祥に関わる歴史や特性、必要な技術を理解し、その高め方について理解し、レポートにまとめることができる。	各種目の発祥に関わる歴史等についてレポートに書くことができていない。	レポートに必要な内容を書くことができていないが、空白が多い。	レポートを提出することができない。

保健ルーブリック 授業

	A	B	C	D
関心・意欲・態度	学習テーマについて理解を深める為に予習に取り組み、発言・発表を積極的におこなうことができる。	質問に対し、発言・発表を行うことができる。	発言・発表を行うことができるが、関係ないことや的確に答えることができない。	授業に集中できていないことが多く、発言・発表ができない。
関心・意欲・態度	ノートをわかりやすくまとめたり、課題に対して積極的に取り組むことができる。	ノートを書き写すことができる。課題を提出することができる。	ノートを書き写すことや課題に取り組むことができるが、不十分な点が多い。	ノートを書いていない。また、課題に取り組むことができない。

保健ルーブリック グループ学習

思考・判断	学習テーマをよく理解し、積極的にグループ内の役割分担を遂行している。発表の内容をよく理解し、わかりやすくデータを整理し、聞く側の反応を予測しながらテーマを伝えられている。	発表の内容が聞く側に伝わるように工夫をしている。グループ内の役割を行うことができる。	発表を行うことができるが、不十分な点やわかりにくいことがある。グループ内で与えられた役割に取り組むが不十分な点がある。	与えられた課題に対して、発表することができない。グループ内で協力をできておらず与えられた役割を果たせていない。
-------	---	--	---	---

令和3年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
芸術	音楽 I	2	1年・全コース(選択)	田中
教科書	改訂版 高校生の音楽1(音楽之友社)	副教材	改訂 音楽通論(教育芸術社)	

1. 学習の目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

授業中で学ぶ表現を恥ずかしがらずに実践すること。学んだ表現に工夫を加え、さらに独創的な表現を追求すること。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①音楽への関心・意欲・態度 学習内容や学習活動に関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、受講態度、課題・レポート等の提出状況
②音楽表現の創意工夫 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら音楽表現を工夫し、どのように音楽を表すかについて思いや意図を持っているかを評価します。	課題・レポート等の内容(考察)
③音楽表現の技能 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、創造的に表しているかを評価します。	実技試験での技術的な習得と応用状況
④鑑賞の能力 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら楽曲のよさや美しさを味わって聴いているかを評価します。	課題・レポート等の内容

4. 担当者からのメッセージ

自信をもって発表ができるよう、練習時間を大切にしましょう。より魅力的な表現を目指して、何事にも積極的に、根気よく取り組みましょう。

年間学習計画

学期	学習項目・内容の要点	学習のねらい(ポイント)	学習活動(観点)	自己評価
1	・オリエンテーション ・言葉と音楽(歌唱) ・クラシックギター ・楽典 ・鑑賞	○幅広い音楽の世界に興味・関心を持つ。 ○基本的な発声法や表現を習得する。 ○詩の内容を感じ取り、その曲に合った表現を工夫する。 ○鑑賞を通して気づいたことを自分の演奏の工夫につなげる。 ○基本的な奏法を習得する。 ○楽譜について理解する(音価・音名・譜表・拍子等)。 ○独奏曲や管弦楽曲に興味・関心を持つ。 ○音楽を形づくっている要素を知覚し、よさや美しさを味わって聴く。	レポート①② 実技試験③④ 実技試験③ 課題③ ワークシート①②④	 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】
2	・合唱 ・キーボード ・世界の歌 ・器楽アンサンブル ・鑑賞	○合唱の特徴を生かした表現を工夫する。 ○基本的な奏法を習得する。 ○曲種に合った発声法や表現ができる。 ○リコーダーとキーボードの特徴を生かしたアンサンブルをする。(リコーダーをリズムアンサンブルに変更する可能性有り) ○オペラや合唱曲に興味・関心を持つ。 ○音楽を形づくっている要素を知覚し、よさや美しさを味わって聴く。	レポート①② 実技試験③ 実技試験③④ 発表③④ ワークシート①②④	 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】
3	・鑑賞 ・創作 ・歌曲	○和楽器に興味・関心を持つ。 ○伝統音楽の特徴を理解してよさや美しさを味わって聴く。 ○基礎的な創作を通じて、独創的な表現を身につける。 ○意図を持って表現に取り組む。 ○曲種に合った発声法や表現ができる。	ワークシート①②④ ワークシート・課題②③ 実技試験③④	 【 】 【 】 【 】

芸術(音楽)ルーブリック

	A	B	C	D
①関心・意欲・態度 (レポート提出)	全ての内容が的確に記載されている。期限内に提出されている。	全ての内容が記載されている。期限内に提出されている。	所々空白部分が見られる。期限内に提出できず。	内容が不十分である。期限内に提出できず。
(受講態度等)	主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に概ね取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に取り組むことができない。

	A	B	C	D
②音楽表現の創意工夫(課題・レポート内容)	音楽を形づくっている要素を知覚し、どのように演奏するかについて表現意図を十分に練っている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、表現意図を持っているが不十分である。	音楽を形づくっている要素を知覚し、表現意図を持つことが難しい。

	A	B	C	D
③音楽表現の技能(実技試験)	必要な技能を習得し、意図に応じて表現方法を工夫して表している。	必要な技能を習得し、表現方法を工夫して表している。	必要な技能の習得に不十分なところがあるが、表現方法を工夫して表している。	必要な技能の習得が不十分で、表現することができない。

	A	B	C	D
④鑑賞の能力(課題・レポート内容)	作品や音楽文化などを理解し、そのよさや美しさを味わい、自分の意見や感想を表現することができる。	作品や音楽文化などを知り、自分の意見や感想を表現することができる。	作品や音楽文化などを知り、自分の意見や感想を表現することができるが、内容に不十分なところがある。	内容が不十分である。

令和3年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
芸術	美術 I	2	1年全コース(選択)	奥村
教科書	美術1 (光村図書)	副教材		

1. 学習の目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習・復習は必要ありませんが、考えたことを表現する努力をしてください。考えたように表現できない場合は積極的に担当に助言を求めてください。また、美術系への進学を希望している人は、できるだけ早めに相談に来てください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①美術への関心・意欲・態度 美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする態度を評価します。	授業への出席状況、受講態度、課題・レポート等の提出状況
②発想や構想の能力 感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っているかを評価します。	アイデアスケッチ、課題作品の内容や、そのレポート内容(考察)
③創造的な技能 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて、表現方法を工夫して表しているかを評価します。	課題作品の技術的な技能の習得状況と応用状況
④鑑賞の能力 美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっているかを評価します。	レポート内容や発表など

4. 担当者からのメッセージ

様々な美術に関する展覧会などに足を運んで、表現にもいろいろあることを知ったり、日常生活のなかにあるデザインされたものについて考察したり、自分はどのような表現をしたいかと考えるなど、美術やデザインに興味・関心を持って授業に取り組んでください。

年間学習計画(美術Ⅰ)

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動(観点)	自己評価
1	・オリエンテーション 色と光の表現、色と光の表現 ・シンボルマークのデザイン ・様々な技法によるデザイン表現 ・鑑賞	□ 現代美術から表現の楽しさを感じとり、美術への興味・関心を持っている。 □ 色の仕組みや日本独特の色彩感覚を理解している。 □ マークデザインの役割や目的を考え、目的に合った相応しいものを考え制作している。 □ 作品全体の視覚的なメッセージを考え、絵の具、針金、スチレンボードなど様々な素材による表現を試みて、ポスターを制作している。 □ 他の生徒の作品を鑑賞し、その良さや技法の工夫等を感じ取っている。	レポート課題①④ 課題作品①②③ 課題作品(アイデアスケッチ含)①②③ レポート課題①④	【 】 【 】 【 】 【 】
2	・鑑賞・世界の中の日本の美術 ・アクリル絵の具を使って人物を描く ・孔版画	□ 世界の美術の変遷や概要を眺め、日本の美術の特徴や良さについて考えている。 □ 鏡や写真の資料をもとにして自画像や人物画を制作している。 □ その人の特徴が出るようなポーズを選択し、背景を工夫して、人物を効果的に表現している。 □ スケッチから文様を作り、孔版画の技法を理解して創造的に制作している。	レポート課題①④ 課題作品①②③ 課題作品(アイデアスケッチ含)①②③	【 】 【 】 【 】
3	・現代美術・ボックスアート(箱の中に異空間を表現する) ・鑑賞・1年間のまとめ	□ 演劇の舞台デザインのような感覚で、制作のイメージに合った空間になるように工夫している。 □ 遠近法や重なり等を活用して奥行きや広がり表現している。 □ コーネル等のボックスアートを手がけている作家の作品を鑑賞し、その良さや技法の工夫等を感じ取っている。 □ 1年間を思い返し、自分の感覚に合った表現方法や作家作品について考えをまとめている。	課題作品①②③ レポート課題(アイデアスケッチ含)①② レポート課題①④ レポート課題①④	【 】 【 】 【 】 【 】

芸術(美術)ルーブリック

	A	B	C	D
①関心・意欲・態度(レポート提出)	全ての内容が的確に記載されている。期限内に提出されている。	全ての内容が記載されている。期限内に提出されている。	所々空白部分が見られる。期限内に提出できず。	内容が不十分である。期限内に提出できず。
(受講態度等)	主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に概ね取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に取り組むことができない。

	A	B	C	D
②発想や構想の能力(アイデアスケッチ・作品レポート内容)	課題の内容をよく理解し、発想や構想を明確に表現するための構想を練っている。	課題の内容を理解し、発想や構想を表現するための構想を考えている。	課題の内容を理解し、発想や構想を表現することが難しい部分がある。	課題の内容を理解し、発想や構想を表現することが難しい。

	A	B	C	D
③創造的な技能(課題作品)	必要な技能を習得し、意図に応じて表現方法を工夫して表している。	必要な技能を習得し、表現方法を工夫して表している。	必要な技能の習得に不十分なところがあるが、表現方法を工夫して表している。	必要な技能の習得が不十分で、表現することができない。

	A	B	C	D
④鑑賞の能力(レポート・発表内容)	作品や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを味わい、自分の意見や感想を表現することができる。	作品や美術文化などを理解し、自分の意見や感想を表現することができる。	作品や美術文化などを理解し、自分の意見や感想を表現することができるが、内容に不十分なところがある。	内容が不十分である。

令和3年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
芸術	工芸 I	2	1年・全コース(選択)	山脇
教科書	『工芸 I』(日本文教出版)	副教材	『美術資料』(秀学社)	

1. 学習の目標

身の回りの生活に目を向け、自己の思いなどから発想して、用途と美しさの調和を考えて表現することができる。使用する人や場などに合ったデザインを考え、制作手順や技法などを理解し、創意工夫して制作できるようになる。作品のよさや美しさ、制作過程における工夫や素材の活かし方などを理解し、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取れる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

発想の能力を高めるには、自然界にある形や色彩に関心を持ったり身近なものを観察したりすることが役立ちます。表現の技能を向上させるには、よりよいものを目指して真摯に制作に取り組むことが大切です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 題材の内容に関心を持ち、主体的に発想して制作の構想を練ったり、制作方法を理解し、すすんで制作しているかどうかを評価します。	制作(受講)態度、課題・レポート・アイデアスケッチの提出 授業への出席状況等
②発想や構想の能力 感性や想像力を働かせて自然や素材、身近な生活や自己の思いなどから、心豊かに発想し、用途と美しさの調和を考えて制作の構想を練っているかどうかを評価します。	アイデアスケッチ・実物大の下図・平面表現等
③創造的な技能 課題の制作方法を理解し、意図に応じて材料や用具を活用したり、手順や技法などを吟味するなど、創意工夫して制作しているかどうかを評価します。	作品表現等
④鑑賞の能力 作品のよさや美しさ、作者の意図と表現の工夫を感じ取り、制作過程における工夫や素材の活かし方、生活や社会を豊かにする工芸の働きについての理解を深めているかを評価します。	ワークシート・レポートの内容等

4. 担当者からのメッセージ

ものづくりに対する理解を深め、自ら作り出すことの楽しさや喜びを存分に味わってください。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動	自己評価
1	○オリエンテーション ・つくる喜び ・暮らしのかたち	□「考える・つくる・使う」について知り、工芸学習の意義を理解する。 □日々の暮らしに使われているものを通して、工芸の意味や役割について考える。	・中学で作ったものなどを思い出し、それについての説明をプリントにまとめる。(自己紹介アンケート)	【 】
	○Ⅰ 創作図案 平面表現	□1学期の後半で行うろうけつ染めの実物大の下図を作成する。 □海や森などの構成要素から造形のおもしろさを発見し構成を工夫して丁寧に表現する。	・アイデアスケッチを考える。 ・平面作品(実物大の下図)を作成し提出する。	【 】 【 】
	○Ⅱ ろうけつ染め ハンカチを染める ・浸染 ・刷毛染	□制作した平面表現をもとにしてろうけつによる染色の方法を学ぶ。 □染色の分野に興味を持ち、防染技法の一つであるろうけつ染めに積極的に取り組む。 □ろうけつ染めの特長を理解し、作品に上手に取り入れることができる。 □染料による色彩の特徴について理解するとともに、表現された作品の個性の違いを味わう。	・実物大の下図をハンカチに転写して蠟描きし、染色を行うことにより、爽やかな色のオリジナリティあふれた表現のろうけつ染めの作品を提出する。	【 】
2	○モザイクタイルの鍋敷き または壁飾りの制作 Ⅰ 発想と構想 ・アイデアスケッチ①発想 ・アイデアスケッチ②構想 ・色の体系 ・色の調和と働き	□タイルを構成して生まれる独特の図柄、色彩を楽しみながら鍋敷きまたは壁飾りの制作に取り組む。 □タイルを貼る木枠についても自分のオリジナルの形を考える。 □作ろうとする作品の形・大きさ・色についての検討が充分にでき、下図を作成する。 □色の調和と働きを理解し作品の意図に合った配色の工夫ができる。	・アイデアスケッチ①提出 ・アイデアスケッチ②提出	【 】 【 】
	・電動糸鋸・ドリルの使用 ・タイルの切断と成形 ・作品鑑賞会	□電動工具を使用して安全なベニヤ板の裁断や、丁寧な研磨や接着の作業を行うことができる。 □配色のみならず、直線的や曲線的にカットしたタイルの形の調和にも配慮し、美しく表現できる。 □目地材の流し込みや外形(台板)部分の研磨・塗装を丁寧に行う。 □自他問わず作品の良いと思われる点について、自分なりの考えがまとめられること。	・モザイク作品の提出 ・鑑賞会ワークシートの提出	【 】 【 】
3	○レザークラフト(皮革工芸) ・葉の制作 ・カードケースの制作 ・テクスチャー ○まとめ ・身近な生活環境と工芸	□皮革についての基本的な知識や革工芸特有の技法を学ぶ。 □使う人の好みや長く使用しても飽きの来ないデザインについて考える。 □工具の使用技術を習得し、しっかりした表面加工ができる。 □レザーの材質感を深く味わうと共に表面の形状を変化させることによって独自の装飾を作り出す。 □加工した部分をひきたてる染色方法や仕上げのかがる作業が丁寧にできる。 □日本を代表する文化都市京都の工芸について理解を深める。	・アイデアスケッチとトレースの提出 ・葉の作品の提出 ・カードケースの提出 ・制作課題に関わった小テスト ・レポートを課す場合がある。	【 】 【 】 【 】 【 】

令和3年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
芸術	工芸 I	2	1年全コース(選択)	奥村
教科書	工芸 I (日本文教出版)	副教材	美術資料 (秀学社)	

1. 学習の目標

工芸の幅広い創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習・復習は必要ありませんが、使う材料の性質や表現技法について考え、使う人の気持ちに寄り添う表現をする努力をしてください。考えたように表現できない場合は積極的に担当に助言を求めてください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①工芸への関心・意欲・態度 工芸の創造活動の喜びを味わい、身近な生活及び社会における工芸や工芸の伝統と文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする態度を評価します。	授業への出席状況、受講態度、課題・レポート等の提出状況
②発想や構想の能力 感性や想像力を働かせて、身近な生活や社会的な視点から心豊かな発想をし、よさや美しさなどを考え制作の構想を練っているかを評価します。	アイデアスケッチ、課題作品の内容や、そのレポート内容(考察)
③創造的な技能 創造的な工芸の制作をするために必要な技能を身に付け、表現方法を創意工夫して表しているかを評価します。	課題作品の技術的な技能の習得状況と応用状況
④鑑賞の能力 工芸作品などの表現の工夫や工芸の伝統と文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっているかを評価します。	レポート内容や発表など

4. 担当者からのメッセージ

様々な工芸に関する展覧会や展示会などに足を運んだり、日常生活のなかにあるデザインされたものについて考察したり、自分はどのような素材で表現をし、使う人の気持ちや利便性を考えるかなど、デザインに興味・関心を持って授業に取り組んでください。

年間学習計画(工芸 I)

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動(観点)	自己評価
1	・オリエンテーション・鑑賞 ・平面構成とろうけつ染め ・鑑賞	☐ 工芸の素材による表現方法の違いや工芸の伝統と文化について考えている。 ☐ 身近な布製品をいろいろな角度から調べ、そのよさや美しさを創造的に味わっている。 ☐ ろうけつ染めの技法を理解し、制作の構想を練ってハンカチとして制作している。 ☐ 他の生徒の作品を鑑賞し、その良さや技法の工夫等を感じ取っている。 ☐ 自分の作品の意図や工夫、苦心点などをレポートにまとめ、発表している。	レポート課題①④ レポート課題(アイデアスケッチ含)①②④ 課題作品①②③ レポート課題①④	【 】 【 】 【 】 【 】
2	・モザイクタイルの鍋敷き ・鑑賞会	☐ モザイクタイルの持つ性質を理解し表現に生かしている。 ☐ モザイクタイルの色と形から表現を工夫し鍋敷き(壁飾り)として制作している。 ☐ 各自の作品を鑑賞しあい、その良さや工夫をレポートにまとめている。 ☐ 自分の作品の意図や工夫、苦心点などを発表している。	レポート課題(アイデアスケッチ含)①② 課題作品①②③ レポート課題①④	【 】 【 】 【 】
3	・レザークラフト ・鑑賞・1年間のまとめ	☐ レザークラフトの伝統、文化について学び、普段使用しているレザー製品について考察している。 ☐ レザークラフトの制作を通して、その性質や技術を学び、表現方法を創意工夫して制作している。 ☐ 工芸 I の学習を振り返って反省とまとめを行い、これからの工芸とのかかわりについて考察している。	レポート課題(アイデアスケッチ含)①②④ 課題作品①②③ レポート課題①④	【 】 【 】 【 】

芸術(工芸)ルーブリック

	A	B	C	D
①関心・意欲・態度 (レポート提出)	全ての内容が的確に記載されている。期限に提出されている。	全ての内容が記載されている。期限内に提出されている。	所々空白部分が見られる。期限内に提出できず。	内容が不十分である。期限内に提出できず。
(受講態度等)	主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に概ね取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に取り組むことができない。

	A	B	C	D
②発想や構想の能力(アイデアスケッチ・作品レポート内容)	課題の内容をよく理解し、発想や構想を明確に表現するための構想を練っている。	課題の内容を理解し、発想や構想を表現するための構想を考えている。	課題の内容を理解し、発想や構想を表現することが難しい部分がある。	課題の内容を理解し、発想や構想を表現することが難しい。

	A	B	C	D
③創造的な技能(課題作品)	必要な技能を習得し、意図に応じて表現方法を工夫して表している。	必要な技能を習得し、表現方法を工夫して表している。	必要な技能の習得に不十分なところがあるが、表現方法を工夫して表している。	必要な技能の習得が不十分で、表現することができない。

	A	B	C	D
④鑑賞の能力(レポート・発表内容)	作品や伝統・文化などを理解し、そのよさや美しさを味わい、自分の意見や感想を表現することができる。	作品や伝統・文化などを知り、自分の意見や感想を表現することができる。	作品や伝統・文化などを知り、自分の意見や感想を表現することができるが、内容に不十分なところがある。	内容が不十分である。

令和3年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	コミュニケーション英語 I	4	1年スタンダードクラス	脇田・東・斉藤・西原・谷本・西川
教科書	Revised LANDMARK English Communication I (啓林館)	副教材	英単語・熟語 Bricks1 (いづな書店) Landmark Communication English I リスニングCD (啓林館) Listening Reading LR (いづな書店)	

1. 学習の目標

- ①英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図れるようにする。
- ②英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。
- ③GTECに挑戦し、自分の英語力を客観的に知り、レベルアップにつなげる。
- ④具体的には、まとまりのある700語程度の英文を読んで、内容の概要や要点を的確に理解し、その内容を英語で伝えることができるようにする。また、語彙力を高める。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- 「予習・授業・復習」という基本的な学習サイクルをできるだけ早く身につけること。
- ①予習では、まず英文を読んで概略をつかみましょう。その後、知らない語を辞書で調べながら英文を読み、自分の力で内容を読み解く練習をしましょう。この段階では、「予習でどこが分からなかったのか」を確認することが重要です。
 - ②授業では、予習でわかっていると思った部分が正しかったを確認し、予習で分からなかった部分を重点的に整理しましょう。丁寧にノートにまとめることも大切です。また、理解したことについて、積極的に英語で表現しようとする態度も大切です。
 - ③復習では、内容を再確認しながら、不明な点が残っていないかをチェックしましょう。音声CDを聞きながら何度も音読しましょう。このサイクルを普段からしっかり続けていれば、考査前に困ることはありません。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業への出席状況、受講態度(英語を用いようとする積極性) ワークシート等の提出状況
②英語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	話す・書く能力 定期考査、小テスト、スピーキングテスト、プレゼンテーション ライティング課題等
③英語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	聞く・読む能力 定期考査、小テスト、リスニング・リーディングテスト等
④言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	定期考査、小テスト、レポート内容等

4. 担当者からのメッセージ

上記に書かれた「基本的な学習サイクル」を継続すると確実に力が伸びます。
語学は「習うより慣れる」です。 Practice makes perfect!

	A1	A2	A2～B1	B1	B1～B2	B2
CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) ヨーロッパ言語共通参照枠	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常表現と言ひ回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができる。どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物など個人的情報について、質問したり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接関係がある領域に関する、よく使われる文や表現を理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に应付することができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。		仕事、学校、娯楽、で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいいてい事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。		自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができる。さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
英検	3・4級	準2級		2級		準1級
GTEC4技能 (1280点)	～689 (grade 2)	690～959 (grade 3/4)		960～1189 (grade 4/5/6)		1190～1280 (grade 6/7)

		1	2	3	4	5	6
		簡単な定型表現を使えるようにしよう	もう少し幅広い英語を使って表現してみよう	簡単な日常のコミュニケーションが取れることを目標にしよう	日常のコミュニケーションが取れるようにしよう	授業以外でも英語を使ってみよう	日本を英語で発信しよう
理解	Reading	身近な名詞・動詞・形容詞が分かる。短い文が理解できる。	文の主語・動詞を理解し、基本的な語句・表現を多く含む英文が読める。	様々な話題について書かれた少し難易度の高い英文を、辞書を使いながら読める。	複文構造を理解し、前から読み進めることができる。物語文をどんどん読める。評論文の論旨の展開が理解できる。学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の英文を読むことができる。	文学作品が読める。自分の興味のある分野の専門用語を含む文が読める。英字新聞や英語サイトを辞書があれば読める。	辞書を使って、社会性の高い分野の文章や専門的な論文が読める。
	Listening	授業で何度も使う表現や語句を聞きわけることができる。	ゆっくり話されれば、必要な情報を聞き取ることができる。	学習したテーマに関する質問を聞いてわかる。また、そのテーマに関する文の内容を聞いて理解することができる。	学習したテーマに関する短い簡単なニュースやメッセージがゆっくりはつきり読まれたとき、メインポイントを聞き取ることができる。必要な情報は、ほぼ聞き取ることができる。	指示にスムーズに対応し、説明や批評なども概ね理解することができる。	指示に素早く正確に対応し、説明や批評も理解し、正確に内容を把握することができる。自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、内容や話者の意図を理解できる。
表現	Writing	自分について基本的な情報(名前・住所・家族など)を、辞書を使えば短い句または文で書くことができる。	学習したテーマについて、文法的な間違いを含みつつも、簡単な短文を書くことができる。既習の語を使って短文を書くことができる。	学習したテーマ及び自分の興味あることについて、簡単な感想や意見を書くことができる。	興味のある幅広い分野に関して、理由や説明文などを加えて、意見や感想を書くことができる。	幅広い分野に関して、理由や説明文を加え、パラグラフ構成が整ったある程度の長さの文章を書くことができる。	しっかりした論理構成で、アカデミックな題材の小論文や報告を書くことができる。
	Speaking	学習したテーマについて、なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所・個人的なトピック(家族や学校生活)について質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマについて、基本的な語や言い回しを使って、必要なことを質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマ及び自分の興味のあることや生活圏内の事柄(趣味・家族・出来事など)について簡単な意見交換ができる。	学習したテーマ及び短い簡単なニュースを、辞書の力を借りながら伝達することができる。	幅広い分野に関して、自分の考えを述べながら、相手と簡単な意見交換ができる。	英語のネイティブスピーカーに対してごく自然かつ自発的に会話することができる。身近な場面で、ある事柄について、自分の意見を説明したり主張したりしながら積極的に会話することができる。

年間授業計画[科目名]

		LANDMARK	Bricks1 (サポートノート含)	LR①	テキスト4	テキスト5	自己評価
1学期	中間	Lessons 1-2	stage1(中学校既出単語復習)	Lesson1～5			
	期末	Lessons 3-4	stage2 (CEFRA1レベル)	Lesson6～10			
2学期	中間	Lessons 5-6	stage2 (CEFRA1レベル)	Lesson11～15			
	期末	Lessons 7-8	stage3(高校1年生～2年生レベル)	Lesson16～20			
3学期	学年末	Lessons 9-10	stage3(高校1年生～2年生レベル)	Lesson21～22 (研修旅行があるので少なめ)			

令和3年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	コミュニケーション英語 I	4	1年 アドバンスクラス	脇田・斉藤・西原
教科書	MAINSTREAM I English Communication I SECOND EDITION(増進堂)	副教材	英単語・熟語 Bricks1(いづな書店) MAINSTREAM Communication English I リスニングCD(啓林館) Listening Reading LR Level 1(いづな書店)	

1. 学習の目標

- ①英語で、積極的にコミュニケーションを図れるようにする。
- ②英語で、様々な情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする基礎的な言語運用能力を養う。
- ③GTECに挑戦し、自分の英語力(4技能)を客観的に知り、弱点補強をし、バランスのよいレベルアップにつなげる。
- ④具体的には、まとまりのある600語程度の英文を読んで、内容の概要や要点を的確に理解し、間違いを恐れず、その内容を英語で伝えることができるようにする。また、語彙力を日々高める。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- 「予習・授業・復習」という基本的な学習サイクルをできるだけ早く身につけること。
- ①予習では、まず英文を読んで(黙読)概略をつかみましょう。その後、新しい単語を中心に、知らない語を辞書で調べながら英文を再度読み、自分の力で内容を読み解く練習をしましょう。この段階では、「予習でどこが分からなかったのか」を確認することが重要です。
 - ②授業では、予習でわかっていると思った部分が正しかったかを確認し、予習で分からなかった部分を重点的に整理しましょう。効率よく、わかりやすく、丁寧にノートにまとめることが大切です。また、理解したことについて、積極的に英語で言って、または、書いて表現しようとする態度も大切です。
 - ③復習では、内容を再確認しながら、不明な点が残っていないかをチェックしましょう。音声CDを聞きながら、何度も繰り返し音読しましょう。本文を見ながら同時リピーティングしていくのが効果的です。このサイクルを普段からしっかり続けていれば、考査前に困ることはありません。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業への出席状況、受講態度(英語を用いようとする積極性) ワークシート等の提出状況
②英語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	話す・書く能力 定期考査、小テスト、スピーキングテスト、プレゼンテーション ライティング課題等
③英語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	聞く・読む能力 定期考査、小テスト、リスニング・リーディングテスト等
④言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	定期考査、小テスト、レポート内容等

4. 担当者からのメッセージ

上記に書かれた「基本的な英語学習サイクル」を継続し、自分の英語学習方法の転換、次のステップにたどりつくまで、意識的に、粘り強く学習するのがポイントです。毎日毎日英語を勉強しないと、英語に触れておかないと、同じレベルにとどまったままになります。そういうことのないよう、「新しい自分の発見」に向けて、「世界への新しい扉」を開くために、夢を抱いて、ひたすら頑張ってください。期待しています。

	A1	A2	A2~B1	B1	B1~B2	B2
CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) ヨーロッパ言語共通参照枠	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常表現と言ひ回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物など個人的情報について、質問したり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接関係がある領域に関する、よく使われる文や表現を理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。		仕事、学校、娯楽、で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。		自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができる。さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
英検	3・4級	準2級		2級		準1級
GTEC4技能 (1280点)	~689 (grade 2)	690~959 (grade 3/4)		960~1189 (grade 4/5/6)		1190~1280 (grade 6/7)

		1	2	3	4	5	6
		簡単な定型表現を使うようにしよう	もう少し幅広い英語を使って表現してみよう	簡単な日常のコミュニケーションが取れることを目標にしよう	日常のコミュニケーションが取れるようにしよう	授業以外でも英語を使ってみよう	日本を英語で発信しよう
理解	Reading	身近な名詞・動詞・形容詞が分かる。短い文が理解できる。	文の主語・動詞を理解し、基本的な語句・表現を多く含む英文が読める。	様々な話題について書かれた少し難易度の高い英文を、辞書を使いながら読める。	複文構造を理解し、前から読み進めることができる。物語文をどんどん読める。評論文の論旨の展開が理解できる。学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の英文を読むことができる。	文学作品が読める。自分の興味のある分野の専門用語を含む文が読める。英字新聞や英語サイトを辞書があれば読める。	辞書を使って、社会性の高い分野の文章や専門的な論文が読める。
	Listening	授業で何度も使う表現や語句を聞き取ることができる。	ゆっくり話されれば、必要な情報を聞き取ることができる。	学習したテーマに関する質問を聞いてわかる。また、そのテーマに関する文の内容を聞いて理解することができる。	学習したテーマに関する短い簡単なニュースやメッセージがゆっくりはっきり読まれたとき、メインポイントを聞き取ることができる。必要な情報は、ほぼ聞き取ることができる。	指示にスムーズに対応し、説明や批評なども概ね理解することができる。	指示に素早く正確に対応し、説明や批評も理解し、正確に内容を把握することができる。自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、内容や話者の意図を理解できる。
表現	Writing	自分について基本的な情報(名前・住所・家族など)を、辞書を使えば短い句または文で書くことができる。	学習したテーマについて、文法的な間違いを含みつつも、簡単な短文を書くことができる。既習の語を使って短文を書くことができる。	学習したテーマ及び自分の興味あることについて、簡単な感想や意見を書くことができる。	興味のある幅広い分野に関して、理由や説明文などを加えて、意見や感想を書くことができる。	幅広い分野に関して、理由や説明文を加え、パラグラフ構成が整ったある程度の長さの文章を書くことができる。	しっかりした論理構成で、アカデミックな題材の小論文や報告を書くことができる。
	Speaking	学習したテーマについて、なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所・個人的なトピック(家族や学校生活)について質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマについて、基本的な語や言い回しを使って、必要なことを質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマ及び自分の興味のあることや生活圏内の事柄(趣味・家族・出来事など)について簡単な意見交換ができる。	学習したテーマ及び短い簡単なニュースを、辞書の力を借りながら伝達することができる。	幅広い分野に関して、自分の考えを述べながら、相手と簡単な意見交換ができる。	英語のネイティブスピーカーに対してごく自然かつ自発的に会話をすることができる。身近な場面では、ある事柄について、自分の意見を説明したり主張したりしながら積極的に会話することができる。

年間授業計画[科目名]

		MAINSTREAM	Bricks1 (サポートノート含)	LR①	文法項目①	文法項目②	活用するページ
1学期	中間	Lessons 1~2	stage1(中学既出単語)~stage3(高校1年生 CEFR A2レベル p.199まで)	Lesson1~5	文型1~3 / 動名詞/受け身	文型4~5 / 形式主語it / 関係代名詞	発音記号 / 英語の語順
	期末	Lessons 3~4		Lesson6~10	様々な受け身	過去完了 / SVOC(使役・知覚)	音読 / フレーズ'リーディング'
2学期	中間	Lessons 5~6	Stage 3 (高校1年生 CEFR A2レベル)	Lesson11~15	関係代名詞what / 部分否定	関係副詞 /	ディスコースマーカ
	期末	Lessons 7~8		Lesson16~20	分詞構文	準動詞の受身形	ディスコースマーカ
3学期	学年末	Lessons 9~10	stage4(高校1年生~2年生 CEFR A2レベル ~p.267)	Lesson21~22 (研修旅行があるので少なめ)	仮定法過去 / 様々な完了形	助動詞+完了形 / 仮定法	分野別 Hot Topics

令和3年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	英語表現 I	2	1年全コース	脇田・東・西原・斉藤・西川・谷本
教科書	Vision Quest English Expression I Core (啓林館)	副教材	2nd Edition 総合英語 Vision Quest (啓林館)	

1. 学習の目標

英語を読む、聞く、書く、話す能力の基礎を確かなものにし、これらの活動を通してコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

①英語を読む・聞く・書く・話すのに必要な基本的文法事項を理解できる。

②学習したテーマ及び自分の興味のあることについて、簡単な感想や意見を書くことができる。

③学習したテーマ及び自分の興味のあることや生活圏内の事柄について簡単な意見交換ができる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習は授業中に発言や質問をするための一つの準備作業だと思って、毎日欠かさず自宅で行うようにして下さい。そして予習の際は、「まだ習っていないから出来ない」から「まだ習っていないが、今ある力でなんとかやってみよう」に、また「英作は答えを暗記すればいい」から「先ず自分のことばで表現してみよう」と意識を大きく変換して下さい。その意識で今後英語学習に取り組めば、卒業後に必要となる英語でのコミュニケーション能力も必ず向上します。高校で必要且つ十分な文法事項を学習したのち、将来、自分の考えや思いを如何に自分らしい英語で表現するか。それは偏に皆さんの意識の持ち方にかかっています。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業への出席状況、受講態度(英語を用いようとする積極性) ワークシート等の提出状況
②英語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	話す・書く能力 定期考査、小テスト、スピーキングテスト、プレゼンテーション ライティング課題等
③英語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	聞く・読む能力 定期考査、小テスト、リスニング・リーディングテスト等
④言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	定期考査、小テスト、レポート内容等

4. 担当者からのメッセージ

授業では積極的に発言や質問をして下さい。質問は授業の華です。質問することで、より深く学習内容が理解できます。加えて、別の新たな知識や感動が得られることもよくあります。その遣り取りを聞いている他の生徒たちにもいい影響を及ぼし、延いてはクラス全体の英語力向上にもつながります。授業中の質問が苦手だった人は、是非一度挑戦してみてください。英語表現は英文法を学ぶだけの科目と捉えずに、英語表現の授業でもコミュニケーションを取りながら楽しい時間を過ごしましょう。

CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) ヨーロッパ言語共通参照枠	A1	A2	A2～B1	B1	B1～B2	B2
	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常の表現と言ひ回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができる、どこに住んでいるか、誰と知り合い、持ち物など個人的情報について、質問したり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接関係がある領域に関する、よく使われる文や表現を理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。		仕事、学校、娯楽、で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることもできる。		自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができる、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
英検	3・4級	準2級		2級		準1級
GTEC4技能 (1280点)	～689 (grade 2)	690～959 (grade 3/4)		960～1189 (grade 4/5/6)		1190～1280 (grade 6/7)

		1	2	3	4	5	6
		簡単な定型表現を使えるようにしよう	もう少し幅広い英語を使って表現してみよう	簡単な日常のコミュニケーションが取れることを目標にしよう	日常のコミュニケーションが取れるようにしよう	授業以外でも英語を使ってみよう	日本を英語で発信しよう
理解	Reading	身近な名詞・動詞・形容詞が分かる。短い文が理解できる。	文の主語・動詞を理解し、基本的な語句・表現を多く含む英文が読める。	様々な話題について書かれた少し難易度の高い英文を、辞書を使いながら読める。	複文構造を理解し、前から読み進めることができる。物語文をほとんど読める。評論文の論旨の展開が理解できる。学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の英文を読むことができる。	文学作品が読める。自分の興味のある分野の専門用語を含む文が読める。英字新聞や英語サイトを辞書があれば読める。	辞書を使って、社会性の高い分野の文章や専門的な論文が読める。
	Listening	授業で何度も使う表現や語句を聞き取ることができる。	ゆっくり話されれば、必要な情報を聞き取ることができる。	学習したテーマに関する質問を聞いてわかる。また、そのテーマに関する文の内容を聞いて理解することができる。	学習したテーマに関する短い簡単なニュースやメッセージがゆっくりはつきり読まれたとき、メインポイントを聞き取ることができる。必要な情報は、ほぼ聞き取ることができる。	指示にスムーズに対応し、説明や批評なども概ね理解することができる。	指示に素早く正確に対応し、説明や批評も理解し、正確に内容を把握することができる。自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、内容や話者の意図を理解できる。
表現	Writing	自分について基本的な情報(名前・住所・家族など)を、辞書を使えば短い文または文で書くことができる。	学習したテーマについて、文法的な間違いを含みつつも、簡単な短文を書くことができる。既習の語を使って短文を書くことができる。	学習したテーマ及び自分の興味あることについて、簡単な感想や意見を書くことができる。	興味のある幅広い分野に関して、理由や説明文などを加えて、意見や感想を書くことができる。	幅広い分野に関して、理由や説明文を加え、パラグラフ構成が整ったある程度の長さの文章を書くことができる。	しっかりした論理構成で、アカデミックな題材の小論文や報告を書くことができる。
	Speaking	学習したテーマについて、なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所・個人的なトピック(家族や学校生活)について質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマについて、基本的な語や言い回しを使って、必要なことを質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマ及び自分の興味のあることや生活圏内の事柄(趣味・家族・出来事など)について簡単な意見交換ができる。	学習したテーマ及び短い簡単なニュースを、辞書の力を借りながら伝達することができる。	幅広い分野に関して、自分の考えを述べながら、相手と簡単な意見交換ができる。	英語のネイティブスピーカーに対してごく自然かつ自発的に会話することができる。身近な場面、ある事柄について、自分の意見を説明したり主張したりしながら積極的に会話することができる。

年間授業計画[科目名]

		Vision Quest English Expression Core	Vision Quest English Expression I	2nd Edition総合英 語 Vision Quest	テキスト4	テキスト5	自己評価
1学期	中間 期末	Lesson 1-2 Lesson 3-5	教科書の該当ページ 教科書の該当ページ	教科書の該当ページ 教科書の該当ページ			
2学期	中間 期末	Lesson 6-7 Lesson 8-10	教科書の該当ページ 教科書の該当ページ	教科書の該当ページ 教科書の該当ページ			
3学期	学年末	Lesson 11-12	教科書の該当ページ	教科書の該当ページ			

令和3年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
情報	情報の科学	2	1年全コース	波多野
教科書	情報の科学（数研出版）	副教材		

1. 学習の目標

情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させ、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

単にコンピュータの操作技術の習得に終わるのではなく、コンピュータや情報通信ネットワークに対する基礎的な理解を深め、情報社会の一員として思考力・判断力・表現力等をはぐくむ態度を身に付ける。また、定期考査だけでなく、実習や提出物など毎時間の授業を大切にする態度を不可欠とする。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	教科書内容の講義とPCを使った実習を両方行います。 どちらも積極的に取り組むこと。
②思考・判断 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考査は講義中心 PCを使って作成したdataは提出物として扱います。
③技能・表現 各教科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	定期考査の結果、提出物の創造性などを評価 情報社会への正しい参加態度についても評価します。
④知識・理解 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	定期考査の結果と提出物の完成度

4. 担当者からのメッセージ

体験したことは、記憶に残って再利用できるし応用にも発展するものです。
どの授業でも毎時間体験を重ねてください。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動	自己評価
1	第4編 情報社会と情報モラル 第1章 情報システムと人間 PC利用① 第2章 情報社会の光と影 PC利用② 第3章 情報セキュリティの確保 PC利用③ 第4章 情報社会における法と個人の責任 PC利用④	・社会における情報システムの種類や特徴を理解させるとともに、それらが社会生活に果たす役割と影響を理解する。 キーボード入力 ・情報格差、ネット依存症、ネット上のトラブルや、詐欺などの犯罪の実際を学び、情報化が社会に及ぼす影響を理解する。 キーボード入力 ・情報社会の問題点を踏まえ、情報セキュリティの重要性を認識させるとともに、情報セキュリティを高めるため、暗号、コンピュータウイルス、サイバー攻撃などさまざまな具体例を学び、コンピュータのセキュリティ対策の方法を理解する。 HTML JavaScript ・著作権と産業財産権の保護の必要性を理解させるとともに、そのために必要な法規及び個人の責任について理解する。 表計算アプリ利用	・教科書内容を理解し、疑問の解決に努める。(以下同様) 提出物①【 】 提出物②【 】 中間考査は行わない 提出物③【 】 提出物④【 】 期末考査	
2	第1編 コンピュータとデジタル情報 第1章 コンピュータのしくみ PC利用⑤ 第2章 情報のデジタル表現 PC利用⑥ 第2編 情報通信ネットワーク 第1章 コミュニケーション手段の発達 PC利用⑦	・情報をデジタル化し処理する上で基礎となるコンピュータの基本的なしくみを理解する。 表計算アプリ利用 ・情報のデジタル化の基礎的な知識と技術として、ビットの概念、2進数による表現、文字、音、画像、動画のデジタル化の原理と表現方法を理解 画像処理アプリ利用 ・コンピュータを使った通信の歴史も概観する。 表計算アプリ利用	中間考査は行わない 提出物⑤【 】 2進数についての課題提出 提出物⑥【 】 提出物⑦【 】 期末考査	
3	第2章 インターネットのしくみ PC利用⑧ 第3編 問題解決とコンピュータ PC利用⑨	・情報通信ネットワークの基本的な方式やプロトコルについて理解する。 データベースアプリ利用 ・数学的なデータ分析の基礎を理解し、表計算ソフトウェアを使って簡単な数学的データ処理や分析を行う。 アプリの複合的利用	提出物⑧【 】 提出物⑨【 】 学年末考査	